京都丹波におけるストップ少子化に向けた提言

子育て王国　京都丹波

平成２６年１２月

京都丹波地域少子化対策戦略会議

目　次

はじめに …………………………………………………… 1P

1．京都丹波地域における現状・課題 …………………………… 2P
（1）現状
（2）課題

2．検討経過 …………………………………………………… 13P

3．新規施策で達成したい具体的な目標 ………………………… 14P

4．施策の方向性 ………………………………………………… 14P

5．京都丹波地域における少子化対策　施策提案 ………………… 15P

参考資料
（1）京都丹波地域少子化対策戦略会議　委員 ………………… 21P
（2）京都丹波地域少子化対策戦略会議　開催状況 ……………… 21P
（3）プロジェクトチーム会議 ………………………………… 22P
（4）座談会等 …………………………………………………… 22P
（5）先進地調査 ………………………………………………… 22P

資料編
■京都丹波地域少子化対策戦略会議開催結果（概要） ………… 24P
■座談会等開催結果 …………………………………………… 27P
■先進地調査結果 ……………………………………………… 33P
■京都丹波地域におけるストップ少子化対策アイデア ………… 35P

「子育て王国　京都丹波」とは･･･

京都丹波地域は、豊かな自然があり、恵まれた環境の中でたくましさを兼ね備えた人間を育成することができます。また、交通アクセスが改善され、地元の高校・大学に加え京都や大阪の都市部の高校・大学に通学できる「意外と近い」立地条件にも恵まれています。さらに、行政や民間団体の子育て支援制度も充実しており、子育て家庭にとって非常に魅力的な地域と言えます。

地域主体で恋活・婚活の先進的取組も実施されており、「出会いの場」の創出も積極的に進められています。

このように京都丹波地域は、結婚から子育てに至るまで充実した生活を送ることができる、まさに「王国」にふさわしい地域と言えます。

はじめに

全国的に少子高齢化が急速に進んでいることから、各地域においては、人口減少に歯止めをかけることが緊喫の課題となっています。この少子化による人口減少の問題は、すでに多くの地域において、若年人口が減少することにより、地域経済の活力が奪われ、人口流出に拍車がかかるといった形で顕著に表れてきています。

日本創生会議が今年5月に発表した将来人口推計では、府内26市町村のうち13市町村で2040年までに若年女性（20歳～39歳）が半分以下に減ることから「消滅」する可能性が示されており、急速に危機感が広がってきています。

京都府においては、オール京都体制で取り組む「京都少子化対策総合戦略本部」のもとに、地域ごとの少子化の現状や地域特有の課題などを把握し、今後の地域における少子化対策を総合的かつ抜本的に検討するために広域振興局ごとに地域戦略会議を設置し、少子化の壁の突破に向けて地域で一体となって取り組む体制整備をすることとなりました。

このことを受けて、南丹広域振興局において、今年8月に『京都丹波地域少子化対策戦略会議』を設置し、雇用の創出・活性化、人口流出防止・定住促進や結婚、妊娠・出産、子育てなどを論点として、関係機関・団体の代表者及び地元市町村（亀岡市・南丹市・京丹波町）の首長を含めた方々に委員に就任していただき、地域特性を生かした施策の検討を進めてきました。

また、南丹広域振興局内にプロジェクトチームを設置し横断的な検討を行うとともに、『京都丹波地域少子化対策戦略会議』の委員の方々からの意見に加えて、様々な立場の方から意見を募るために座談会を開催し、先進地調査なども行いながら、300件を超える多くの意見・アイデアが集まりました。

この度、『京都丹波地域少子化対策戦略会議』における、これまでの討議等を踏まえて、「京都丹波地域におけるストップ少子化に向けた提言」として、京都丹波発の各種少子化施策の提案集としてとりまとめたところです。

今後、この提言を生かして、国への要望や京都府、市町村及び民間団体などが取り組む施策を進め、賑わいと活力のある京都丹波地域として少子化対策が実りあるものとなることを期待しています。

１．京都丹波地域における現状・課題

（１）現　状

① 序論

亀岡市・南丹市・京丹波町からなるこの京都丹波地域では、少子高齢化（平成２５年度末で京都府２５．７％　管内２７．５％）や過疎化が年々進行しています。

亀岡市では、JR 山陰本線と国道９号線に沿って市街地が形成され、JR 山陰本線の複線化による鉄道利便性の向上などにより京都市等のベッドタウンとして人口が増加していましたが、平成１３年をピークとする横ばいから微減傾向に転じ、少子高齢化が急速に進展しています。今後も高齢者数は急速に増加していく見込みです。

南丹市は、京都府のほぼ中央部に位置し、都市圏に至近な居住環境を提供しており、併せて多くの企業が進出してきましたが、ここ数年、特に八木・日吉・美山地域においては、高い人口減少率に加えて少子高齢化が急速に進んでいます。さらに、山間地の集落においては高齢化により存続が危ぶまれる「限界集落」がいくつも出現しています。

京丹波町は、農林業を主幹産業とし、古くから交通の要衝として発展してきました。来年開通する京都縦貫自動車道の「丹波―わち間」の整備により、現在の地域構造が抜本的に再構築される見込みです。しかし一方で、町内では広大な面積の下、農村集落が点在していますが、高齢化率が３６％を超過するなど他の市町村に先行した高齢社会となっており、このため、特に農林業の分野においては後継者不足が深刻となっています。

このように、京都丹波地域を構成する市町ごとに、地域を取り巻く環境や歴史・人口構造も異なっており、地域特性として、南部は都市型、北部は農村型の特徴を有しています。一方で、京都丹波地域は京阪神大都市圏に接しており、周辺人口は約１，５００万人を有する好立地の地域である中で、専用球技場である京都スタジアム（仮称）、丹波自然運動公園の京都トレーニングセンター（仮称）の整備、新規国定公園の指定に向けた取組等が順次進められるなど、今後若者世代等を呼び寄せることが出来る大きな可能性を秘めた地域であります。

１０年前（平成１２年）と比較すると、
●京都丹波地域の人口は、約５％減少
１５０，１０１人　→　１４３，３４５人
●京都丹波地域の女性人口（２０歳～３９歳）は、約１５％減少
１８，５０５人　→　１５，８１３人
●京都丹波地域の出生数は、約１４％減少
１，１４６人　→　９８３人

②人口増減について

総人口

亀岡市・南丹市・京丹波町における総人口数の推移は、平成１２年の総人口が１５０，１０１人であったのに対し、平成２２年には、１４３，３４５人となっており、約４．５％程度減少しています。特に北部の南丹市や京丹波等では、大幅な減少傾向にあります。

（表1）総人口の推移（単位：人）

	平成２年	平成７年	平成１２年	平成１７年	平成２２年
京都府	2,602,460	2,629,592	2,644,391	2,647,660	2,636,092
亀岡市	85,283	92,398	94,555	93,996	92,399
南丹市	36,693	37,841	37,617	36,736	35,214
京丹波町	18,696	18,785	17,929	16,893	15,732
管内合計	140,672	149,024	150,101	147,625	143,345

	平成12-22 減少率
京都府	△ 0.3 %
亀岡市	△ 2.3 %
南丹市	△ 6.4 %
京丹波町	△ 12.3 %
管内合計	△ 4.5 %

資料：国勢調査（平成２年～平成２２年）

人口動態

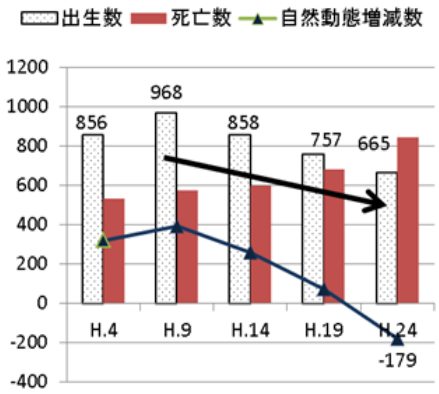
・自然動態増減数

亀岡市については、平成１９年までは出生数が死亡数を上回っていましたが、平成２４年には、出生数を死亡数が大きく上回っています。（図１）

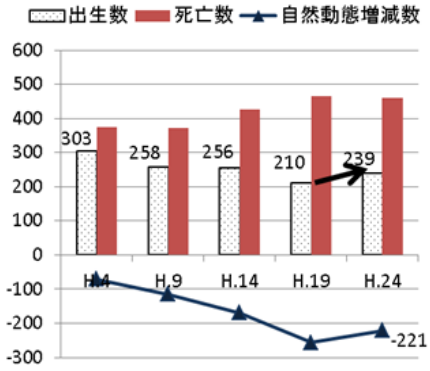
南丹市については、出生数単独でみれば、平成１９年に２１０人であったものが、平成２４年には２３９人と、２９人増加しているものの、自然動態増減数は依然としてマイナスの値を示しています。（図２）

京丹波町については、平成４年以降常に死亡数が出生数を上回っており、加えて、出生数が減少する一方で死亡数は増加傾向にあるため、自然動態増減数は年々減少幅が大きくなってきています。（図３）

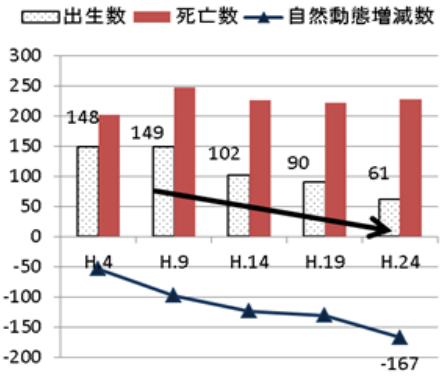
（図1）亀　岡　市



（図2）南　丹　市



（図3）京　丹　波　町



資料：府統計課・調査統計課（京都府推計人口調査）

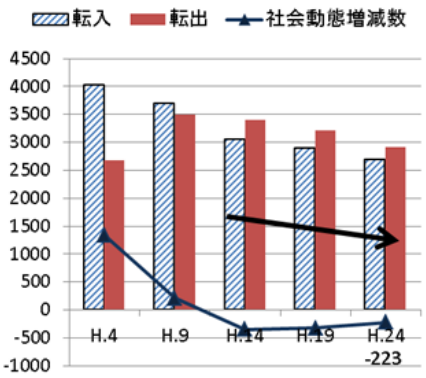
※人口動態：人口増加は、自然増減（出生数－死亡数）と社会増減（流入数－流出数）から成っており、自然増減をめぐる動きを自然動態、社会増減をめぐる動きを社会動態と呼び、合わせて人口動態といいます。

・社会動態増減数

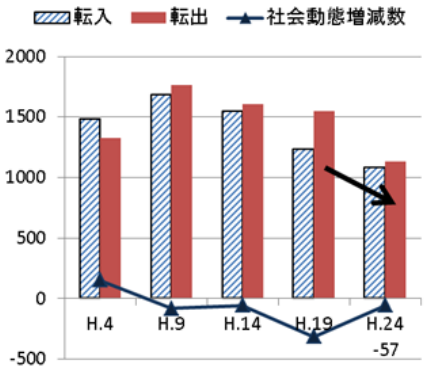
亀岡市と京丹波町については、平成９年まで転入者数が転出者数を上回っていましたが平成１４年以降は逆転して転出者数が転入者数を上回る状況が続いています。（図４，６）

南丹市については、平成９年以降、転出者数が転入者数を上回る状況が続いています。（図５）

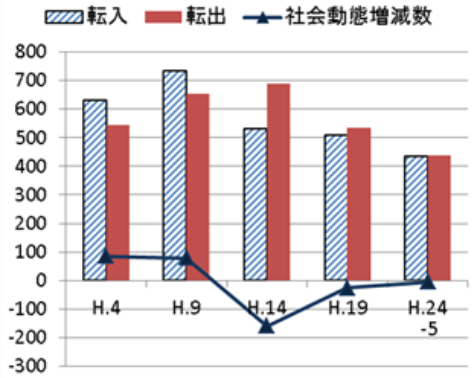
（図4）



（図5）



（図6）



資料：府統計課・調査統計課（京都府推計人口調査）

【分析】

・亀岡市

高齢化率は約２４％と低いものの、一人暮らしの高齢者や高齢世帯が増加しており、今後も急速に高齢者人口の増加が予測されます。現状のままでは、出生率の向上や転入者の急激な拡大を見込むことは困難な状況にあります。

・南丹市

出生数よりも死亡数が多い自然減が人口減少の主な要因と考えられ、今後も同程度の減少が続くものと見込まれます。一方、社会動態については、転入・転出先のほとんどは京都市や亀岡市となっており、大学生や専門学校生の転入・転出も多く、生産年齢人口（１５～６４歳）に当たる世代の近・中距離での移動が目立つ傾向となっています。

・京丹波町

若年層の転出と高齢層の自然減によって人口が減少しています。特に若年層の転出については、進学・就職のほか、地縁関係の希薄化や「田舎付き合いのわずらわしさ」などの住民間での価値観の違いや、本町の基幹産業である農林業の担い手の多くは高齢の小規模事業者であるなど、若者の就労の場が少ないといった問題が影響しているものと考えられます。

③結婚について

婚姻数

婚姻数については、各市町とも婚姻数は減少傾向にあり、２０年前と比較すると約２０％の減少となっています。

（表2） 婚姻数（単位：組）

	平成４年	平成９年	平成１４年	平成１９年	平成２４年
京都府	15,101	15,869	14,899	13,978	13,189
亀岡市	497	445	472	433	388
南丹市	163	152	142	134	129
京丹波町	70	76	64	48	55

資料：府統計課・調査統計課（京都府推計人口調査）、府医務課・健康福祉総務課（府人口動態統計）

なお、１５歳以上の人口に占める未婚の割合を見てみると、平成２２年までの１０年間でほぼ横ばいとなっています。

（表3） １５歳以上人口に占める未婚の割合

		平成１２年	平成１７年	平成２２年
京都府	男性	33.5%	33.1%	32.8%
	女性	26.5%	26.2%	25.7%
亀岡市	男性	31.7%	31.5%	30.0%
	女性	24.2%	23.8%	22.7%
南丹市	男性	31.6%	31.9%	33.9%
	女性	23.6%	23.3%	21.6%
京丹波町	男性	23.3%	23.8%	24.4%
	女性	14.8%	15.2%	15.2%

資料：国勢調査

平均初婚年齢

平均初婚年齢は、各市町ともに上昇傾向にあり、平成２４年調査では、１０年前と比較して男女ともに２歳以上初婚年齢が高くなっています。

（表4） 平均初婚年齢（単位：歳）

		平成１４年	平成１９年	平成２４年
京都府	男性	29.2	30.3	31.1
	女性	27.6	28.6	29.5
亀岡市	男性	28.3	30.0	30.5
	女性	27.1	28.3	29.1
南丹市	男性	27.8～34.0	30.6	29.5
	女性	26.5～31.1	28.1	28.5
京丹波町	男性	27.5～30.4	30.0	33.1
	女性	24.8～27.5	27.8	28.2

資料：府統計課・調査統計課（京都府推計人口調査）・府医務課・健康福祉総務課（府人口動態統計）

【分析】

婚姻数の減少については、若年人口の減少のほかに、そもそもの出会いの場が少ないことやパート・アルバイト・非正規雇用など生活基盤が不安定であることも要因です。

社会人では職場以外での出会いが少なく、民間企業が提供する婚活イベントは費用が高額で、大都市周辺での開催など地域の若者にとってはハードルが高いものとなっています。

④出産について

女性人口

２０歳から３９歳までの女性の人口については、京都丹波地域全体で、平成１２年から平成２２年までの１０年間で、１８，５０５人から１５，８１３人へと約１５％減少しています。中でも京丹波町については、約２７％と大幅な減少となっています。

（表5）　女性人口（２０～３９歳）の推移（単位：人）

	平成２年	平成７年	平成１２年	平成１７年	平成２２年
京都府	350,857	369,371	379,802	370,592	337,257
亀岡市	11,340	12,355	12,712	12,197	11,155
南丹市	4,028	4,245	4,154	3,925	3,453
京丹波町	1,672	1,739	1,639	1,414	1,205
管内合計	17,040	18,339	18,505	17,536	15,813

	平成12-22 減少率
京都府	△ 11.2 %
亀岡市	△ 12.2 %
南丹市	△ 16.9 %
京丹波町	△ 26.5 %
管内合計	△ 14.5 %

資料：国勢調査、日本創生会議資料

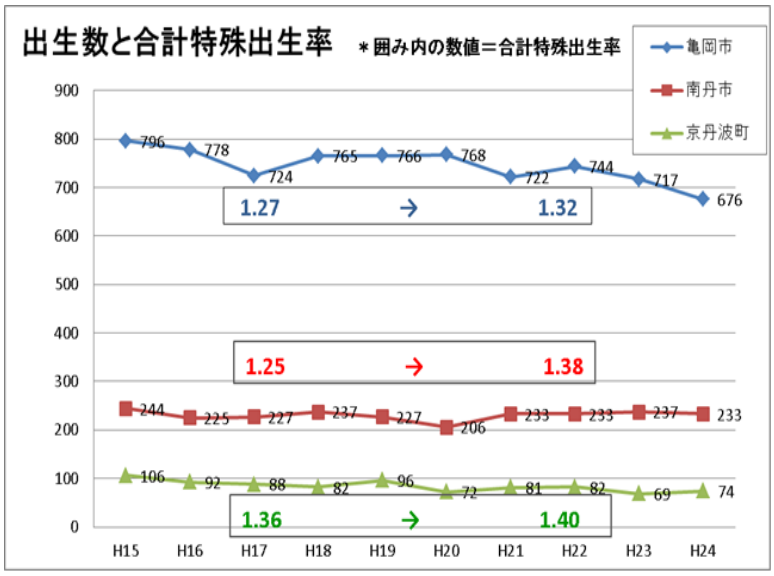
出生数

京都丹波地域全体では、１，２１６人から９６５人（平成１４年と２４年比）とここ１０年減少傾向にあり、亀岡市・京丹波町では継続的に減少、南丹市はここ１０年横ばいとなっています。

合計特殊出生率

京都丹波地域においては、平成２０年から２４年までの５年間の合計特殊出生率が亀岡市１．３２、南丹市１．３８、京丹波町１．４０といずれも２．０７を下回る結果となっています。

（図7）



出生数:人口動態統計
（京都府健康福祉総務課）
合計特殊出生率:人口動態統計特殊報告
（厚生労働省）

※合計特殊出生率:１人の女性が生涯に産むと見込まれる子どもの数をその年の15～49歳の女性が産んだ数をもとに算出するものです。2･07が人口を維持できる水準とされています。

【分析】

出生数及び合計特殊出生率の減少については、出産・子育てに費用がかかる、自由な時間がなくなるなどのマイナスイメージや、妊娠などに対する知識・経験が少ないこと、特に女性は、出産後の職場復帰や、希望する保育所に入所できないなど仕事と家庭の両立への不安のため妊娠・出産を望まない若者が増えたことも要因と考えられます。

⑤２０４０年までの予測

総人口の推移

平成２６年に日本創成会議でから示された総人口の推移は、各市町とも今後も減少傾向が続くことに変わりはなく、このまま東京への一局集中で人口移動が収束しない場合には、今後３０年間で、亀岡市については、２４．８％、南丹市では３２．８％以上、京丹波町に至っては４５．６％の人口が減少することが予測されており、京都丹波地域全体でみると、３０％近い人口減が見込まれています。

(表6)　総人口の推移（単位：人）

	①社人研推計	②人口移動が収束しない場合	総人口減少率（2010 年-2040 年）	
			①	②
京都府	2,223,586	2,189,192	△ 15.6 %	△ 17.0 %
亀岡市	73,056	69,463	△ 20.9 %	△ 24.8 %
南丹市	24,672	23,667	△ 29.9 %	△ 32.8 %
京丹波町	9,172	8,563	△ 41.7 %	△ 45.6 %
管内合計	106,900	101,693	△ 25.4 %	△ 29.1 %

資料：日本創成会議資料

若年女性の人口

若年女性人口の推移について、今後３０年間で京都丹波地域全体で５０．３％の人口減少が見込まれており、これはそのまま出生数の大幅な減少に直結するものと考えられます。

(表7)　女性人口（２０～３９歳）の推移（単位：人）

	①社人研推計	②人口移動が収束しない場合	若年女性人口減少率（2010 年-2040 年）	
			①	②
京都府	212,487	208,595	△ 37.0 %	△ 38.1 %
亀岡市	6,548	5,863	△ 41.3 %	△ 47.4 %
南丹市	1,852	1,533	△ 46.4 %	△ 55.6 %
京丹波町	645	461	△ 46.5 %	△ 61.7 %
管内合計	9,045	7,857	△ 42.8 %	△ 50.3 %

資料：日本創成会議資料

⑥各市町の主な少子化対策への取り組み

これまで各市町において、少子化対策として次のとおり、雇用創出、地域活性化、定住化促進、出会い・結婚、妊娠・出産、子育てへの支援等関係団体と連携しながら地域独自の施策に取り組んできました。

雇用創出

・企業誘致〈亀岡市〉→　企業立地奨励金の交付
・ものづくり産業雇用支援助成〈亀岡市〉→　市民を雇用した製造業等事業者に助成
・企業支援事業〈南丹市〉→　市内からの雇用を奨励支援
・小規模企業支援事業〈南丹市〉→　小規模事業所に対する利子補給等
・企業誘致対策事業〈京丹波町〉→　企業立地奨励金及び雇用促進奨励金

地域活性化

・市民提案型まちづくり活動支援交付金制度〈南丹市〉
・丹波ＰＡ（仮称）と一体的な地域振興拠点整備事業〈京丹波町〉
・住民自治組織によるまちづくり交付金〈京丹波町〉

定住化促進

・定住促進事業〈南丹市〉→　空家のデータベース化
・平成台販売促進事業〈南丹市〉→　不動産業者等の協力を得て販売促進
・新規就農支援事業〈南丹市〉
・定住促進アクションプラン策定〈南丹市〉

出会い・結婚

・市民提案型まちづくり活動支援交付金制度〈南丹市〉
・出会いサポート事業〈京丹波町・町観光協会〉→　観光資源 PR、パートナーづくり支援

妊娠・出産

・妊婦健康診査費助成〈各市町〉
・不妊治療費助成〈各市町〉
・子宝祝金〈南丹市〉
・すこやか祝金〈京丹波町〉

子育て支援

・子育て医療費助成〈各市町〉　※　府制度に独自事業を上乗せ
・入学祝金支給〈南丹市〉
・チャイルドシート購入助成〈京丹波町〉
・育英金支給事業〈京丹波町〉
・プレパパ・ママ交流会、ベビーマッサージ教室　〈京丹波町〉

⑦京都丹波地域ＮＰＯ法人等の活動

京都丹波地域では、ＮＰＯ法人等の活動が活発であり、出会いから結婚、子育てに至るまで地域独自の先進的な取組が進められています。

出会い・結婚

・地域での恋活・婚活事業

子育て

◆保育等

・一時保育、出張保育
・ボランティアによる放課後の児童の保育
・森の楽校・森のようちえん

◆子育て中の親子が集える機会の提供

・季節を感じられるイベント
・読み聞かせや体を使った遊び等を出前、又は決まった場所で定期的に開催
・親同士の交流会
・子育てについて学べる講座等

◆愛郷心の育成

・環境教育や食育活動
・職業体験
・地域の伝統文化を継承する活動

◆情報発信

・メルマガ(あったかメール)
・facebook、LINE
・情報誌の発行
・ＰＴＡと父親が協働して新聞発行

◆その他

・発達障害児やその保護者への支援
・不登校やひきこもりの若者の居場所づくりや体験活動支援
・女性の再チャレンジ支援

（２）課題

◆　少子高齢化社会について

亀岡市・南丹市・京丹波町のそれぞれにおいて、少子高齢化の進行度合いや要因などは異なるものの、京都丹波地域全体では少子高齢化や過疎化が年々進行しています。

また、各市町とも転入者が減少傾向にあるのに対し転出者は増加しており、加速する少子高齢化と相まって地域の人口減少に拍車をかけています。

地域に若者が少なくなれば、労働人口の減少により地域経済の活力が奪わるだけでなく、若年女性人口の減少は既に低迷している出生数・出生率を更に低下させることとなります。

将来人口については、近年の動向がこのまま推移すれば、今後も大幅な減少傾向を続けることが予測されることから人口増加に転じるためには、若者流出の減少とＵターンや移住による転入者数の増加による社会動態や婚姻数の増加に伴う出生数の確保による自然動態による増加が重要となります。

◆　定住化促進について

京都丹波地域は、ＪＲ沿線など交通アクセスに恵まれた都市部に代表される「郊外ぐらし」と山間地・農村集落に代表される「田舎ぐらし」とがともに存在している点が大きな特徴です。

「郊外ぐらし」については、交通アクセスにも恵まれ、大阪府や京都市といった大都市圏への通勤・通学が容易であるという立地条件や、大都市圏とは異なる地域のつながりの強さといった住環境の良さをアピールするなど、その地域をベッドタウンとして、より一層発展させていくことが課題です。

一方、「田舎ぐらし」については、田舎には「何もない」というイメージがある中で、インフラ整備が遅れており不便な点はあるものの、逆に言えば、開発が進んでいないがゆえに手つかずの豊かな自然が残っている、長い歴史をもつ伝統文化の存在や、地域での助け合いの関係性等、そのマイナスイメージを払拭するような「田舎暮らし」のイメージアップが課題となります。

◆　地元雇用の創出について

地域の高校生の地元志向が強いにも関わらず、就職先がないという理由でやむを得ず都市部へ転出する若者が増えている現状においては、地元雇用の創出が課題となっています。

地元企業や地域の福祉職場など、地元には既に多くの就職先があるにも関わらず、民間の就活イベントや就職サイトによる求人活動では、都市部の有名企業等に競争力で劣るため、その存在がなかなか知られていないというのが現状です。

したがって、地元での就職を望む若者に対し、地元の就職先の情報をいかに発信していくかということが課題となっています。加えて、雇用情報を広く内外に発信することで、Ｉターン・Ｊターンの若者も呼び込んでいくことが必要です。

併せて、新規の就職先を開拓することで地元での雇用をより増やすために、外部から企業を呼び込む取り組みも必要となります。

少ない年収や生活基盤が安定しないままでは、結婚・出産になかなか踏み出せない若者

も多く、若者の定着を図るためにも、雇用の創出には、定住化促進、生涯未婚率や出生数の改善のためにもクリアしなければならない課題と言えます。

◆　愛郷心について

Ｕターン者の増加のためには、都会へ出て行った人が地域に戻るきっかけとなる「愛郷心」をいかに育てていくかということも課題です。

愛郷心は短期間で育てられるものではなく、幼少期から京都丹波の豊かな自然に触れる里山保育の体験などとともに、伝統行事や伝統文化などのふるさとの良さを知る学習活動や体験学習をより充実させる取組が必要となります。そして、京都丹波地域における職業体験や地元の大学や高等学校の特色を活かした小・中学校との連携をすることを通して、京都丹波の伝統や文化を大切にする心や望ましい職業観・勤労観を身に付けることにより、大人になってからも地域に愛着を持ち、地域で育ったことを誇りに思える人を育てることにつながります。

また、転入者を増加させるに当たっては、都会から京都丹波地域へと移住してきた人は生活様式の違いに戸惑うことも多く、移住者がいかに早く移住先の地域へと馴染んでいけるかということも課題となっています。

◆　出会い・結婚について

婚姻数の増加のためには、若者の間では結婚はお金がかかる、自由がないなどのマイナスイメージがあり、また生活基盤が安定しない状況での結婚に二の足を踏んでいる若者が多いことから、「結婚生活」のイメージ向上をいかに図っていくかということが課題となります。

加えて、そもそも出会いの場が少ないと感じている未婚の社会人も多く、民間でも多くの婚活イベントが企画されていますが、参加費も高く交通費もかかるなどハードルが高いことから、近場で安心して参加できるような出会いの場を継続的に提供していくことが求められています。さらに、結婚後も京都丹波地域に定住してもらうためには、このような出会いの場に地域独自の特色を持たせる工夫も必要と考えます。

◆　妊娠・出産について

出生数の確保に関しては、妊娠・出産そして子育てへの不安の解消が課題となります。

中でも妊娠・出産への知識がない、周囲に頼れる人がいない、子どもと接した経験がないといったことに多くの若者が不安を感じています。

同じ出産を控えた女性同士または妊娠・出産の経験者との交流を通じて悩みを相談し合うことを通じて、妊娠や出産への不安を解消していけるようなコミュニティづくりが課題となります。

◆　子育てについて

子育てについては、核家族化の進行などにより身近に相談できる人がおらず、養育に不安を持つ子育て家庭がおられます。

このため、小学生や中学生などの若い時期から乳幼児と触れ合う機会をつくるとともに

子育てに関する学習をするなど、子どもに慣れ親しむなかで少しでも子育てへの不安を取り除き、併せて「お金がかかる」「しんどい」というマイナスイメージを持たれがちである子育てについて、子どもがいることの喜び、幸福感と言ったプラスイメージをいかに伝えるかという点が課題です。

また、子育てを取り巻く環境についても、「子ども・子育て支援新制度」が平成２７年４月から本格実施される中で大きく変わろうとしており、今後さらに幼児期の学校教育・保育の質の向上や、待機児童対策、一時預かりや学童保育の拡充等保育環境の充実が必要となってきます。

そして、女性が出産を機に退職すると再就職先を探すのが難しく、出来れば仕事を続けたまま出産・子育てをしたいという希望を持つ若い女性は多くいますが、職場に産休・育休制度があっても、子どもが病気になれば仕事を休まなければならないなど、女性が妊娠前と同様に働くことは容易ではありません。子育てと仕事の両立には職場の理解が不可欠であり、また、子どもを安心して預けられる場所の確保が課題となっています。

さらに、各市町において様々な子育て支援に関する事業に取り組んでおり、また、子育て支援サークル・団体の活動が活発な地域であることから、これらの情報を子育て家庭にしっかりと伝えていくことも大切です。

◆　学生の地域定着について

京都丹波地域に多くある大学（校）は、医療分野、農林分野、芸術分野など特色がある学校が多いことから、これらの専門分野を生かして将来の担い手として地元就職に結びつけることが課題となります。

また、大学に通う若者が出会い・結婚できる機会を積極的に作っていき、将来の京都丹波地域への定住を図る取組も必要となっています。

◆　京都スタジアム（仮称）等のスポーツ資源を活かした若者世代の定着について

京都丹波地域は京阪神大都市圏に接しており、周辺人口は約１，５００万人を有する好立地の地域である中で、専用球技場である京都スタジアム（仮称）、丹波自然運動公園の京都トレーニングセンター（仮称）などの施設が順次整備されています。また、パラグライダー、ラフティングなど京都丹波の自然を活かしたスポーツの振興が図られているなど、今後結婚や子育て世代の若者が多く流入することが見込まれます。これらの施設等を核として、この地域を訪れた多くの若者世代を今後この地域での定住に繋げていけるように、これらの施設と連携した集客施設を誘致して賑わいを創出するなどの取組も必要となっています。

2　検討経過

◆京都丹波地域少子化対策戦略会議

『京都丹波地域少子化対策戦略会議』を３回開催し、地域の特性を踏まえ、今後の総合的かつ抜本的な少子化施策を推進するための検討を重ねました。

行政における少子化対策の現状を把握するため、亀岡市、南丹市、京丹波町の協力を得て、雇用創出・地域活性化・定住促進や結婚・妊娠・出産、子育て支援などの少子化対策施策を調査しました。

◆キャンペーン（座談会等）

より多くの府民の声を戦略会議での検討に生かすため、「学生」「子育て支援団体・サークル」「はたらく若者」「転入者」を対象に合計７回の座談会等を開催して意見聴取を実施しました。

◆先進地調査

少子化対策で先進的な取組みを実施し、実績を上げている「大阪府田尻町」「石川県川北町」へ先進地調査を行いました。

◆南丹広域振興局内プロジェクトチーム

南丹広域振興局においても、「少子化対策」を総合的に検討するため部局横断的な「庁内プロジェクト会議」で検討を進めるとともに、一般職員から少子化対策のアイデアを募集しました。

このような検討経過を経て得られた少子化対策に対する意見・アイデアは３００件を超え、これらの意見も踏まえて、戦略会議において次のとおりの提言として取りまとめました。

３．新規施策で達成したい具体的な目標

①京都丹波地域で家庭を築く若者を増やす

雇用促進、地域活性化、人口流出阻止・定住促進を目指す。

②京都丹波地域の出生率を高める

出会い・結婚、妊娠・出産、子育てに関する支援を一層充実させる。

４．施策の方向性

《３つの視点》

Ⅰ．都会に近い立地条件の良さを生かした田舎暮らしを打ち出すとともに、京都丹波地域への愛郷心を高めて、故郷での定住化やＵターンなどを進める

◆　少子化対策の前提として、人口の減少が続く管内での人口を増やすため、人口の流出を阻止し、定住人口の増加を図ることが大切です。

特に、交通アクセスの改善に伴い、大阪や京都市にも近く通勤・通学も可能であるとともに田舎暮らしが可能であるという立地条件の良さは京都丹波ならではの特徴を踏まえた施策が必要です。

さらに、専用球技場である京都スタジアム（仮称）や丹波自然運動公園の京都トレーニングセンター（仮称）など若い世代を呼び込む施設の整備と連携した取組も必要です。

また、人や地域との結びつきがあるという利点も踏まえ、地元を離れた若者が再び地元に帰ってくるよう、子どものうちから地元の良さを伝えていき、京都丹波の愛郷心を高めるとともに雇用環境を整えるなど、Ｕターンの促進も進めます。

Ⅱ．若者の出会いの場創出と定住促進

◆　少子化対策に歯止めをかけるためには、若者の出会いの場を創出することも有効です。また、京都丹波地域には、大学・専門学校が８校あり、約５千人の大学（校）生が学んでいることから、管内約１４万人の人口のなかで学生の占める割合が非常に高く、これら大学・専門学校と連携し若者の意見を聞きながら、若者定住促進施策を進めます

Ⅲ．京都丹波地域の豊かな自然文化や充実した子育て支援施策などを進める

◆　大都市近郊でありながら、「森の京都」の代表的な地域であり自然文化が豊富という環境や、市町の独自事業や子育てサークルの活動が非常に盛んであることなど子育てしやすい地域であることを踏まえ、更に子どもを産み育てやすい環境の整備を進め、人間力豊かなたくましい子どもの育成を図ります。

５．京都丹波地域における少子化対策

施　策　提　案

Ⅰ　都会に近い田舎暮らしを打ち出すとともに、京都丹波地域への愛郷心を高めて、故郷での定住化やＵターンなどを進める

……１６Ｐ

Ⅱ　若者の出会いの場創出と定住促進

……１８Ｐ

Ⅲ　京都丹波地域の豊かな自然文化や充実した結婚、妊娠・出産、子育て支援施策を進める

……１９Ｐ

Ⅰ　都会に近い田舎暮らしを打ち出すとともに、京都丹波地域への愛郷心を高めて、故郷での定住化やUターンなどを進める

定住促進・地域活性化

意外に近い京都丹波定住促進事業

◆目的

希望者のスムーズな移住を支援

◆対象

府内・府外の移住希望者

◆内容

魅力的な生活情報（自然環境が豊富なこと、大都市近接の利便性、子育てのしやすさ住環境情報など）をパッケージ化し、インターネットやパンフレット等により積極的に発信。地元の自然や文化などに詳しいサポーターを配置

交流滞在型クラインガルテン（交流滞在型市民農園）事業

◆目的

退職した世代及び子育て家庭に交流・滞在・農業体験を通じ京都丹波地域の魅力を知ってもらう

◆対象

退職した世代、子育て家庭

◆内容

退職した世代には余暇の楽しみとして、子育て家庭には自然教育の場として有効な交流滞在型の市民農園を官民協同で創設し、交流イベントも併せて開催

ふるさとの「こころ」を育む事業

◆目的

子どもや若い世代の愛郷心を育む

◆対象

子どもや若い世代

◆内容

・史跡や伝統芸能を地元ボランティアが紹介するツアーを開催
・地域で行われる祭りや伝統芸能への助成制度

「京都丹波地域の産業・仕事」紹介事業

◆目的

地元にある特徴や特色ある産業や仕事を分かりやすく紹介することで、地元への関心や愛郷心を深め、将来の地元就業に繋げる

◆対象

京都丹波地域の中学生等

◆内容

京都丹波地域の産業や仕事をホームページで紹介するとともに、中学生等に向けたガイドブックを作成する

同窓生のきずな応援事業

◆目的

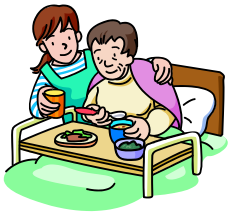
京都丹波の愛郷心を高め、絆を深める

◆対象

京都丹波地域の出身者

◆内容

成人式後５年ごとにイベントを開催するとともに、各市町で活躍している同年代の紹介や地域の魅力などをミニコミ誌等で発信。他市町村への移住者にも積極的に参加を呼びかけ、他市町村からの参加者には、特典として地元の特産物や商店街の商品券を発行



雇用創出

地元雇用マッチング促進事業

◆目的

地域の中小企業や福祉職場等の雇用を掘り起こし、幅広く情報発信することで、地元企業等へ就職する若者を増やす

◆対象

新卒、一般求職者

◆内容

大学や関係機関と連携し、地域や地域外の求職者と地元企業等のマッチングの場として、「福祉職場就職フェア」や「地元企業就職フェア」を開催

雇用創出・地域活性化

「京都丹波へ集客施設を誘致しよう！」推進事業

◆目的

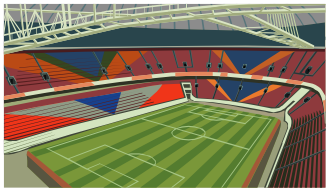
若者が集まりやすい京都スタジアムや京都トレーニングセンターと連携して、交流人口の増加及び定着人口の流出防止、雇用創出を図る

◆内容

・若い世代が集えるような集客施設ゾーン（ショッピングモール等）を誘致

・優遇税制制度の創設

・初期施設整備に対する補助



雇用創出・定住促進・子育て

京都スタジアムふるさと職業体験促進事業

◆目的

子どもの頃から地域企業を身近に感じてもらい、また、子どもの愛郷心を高める

◆対象

小学生・中学生

◆内容

京都スタジアム内に就労体験施設において職業体験を実施できるように地元企業に業務委託。また、行政主導で、職業体験の要素を取り入れた地元企業の見学を斡旋

Ⅱ　若者の出会いの場創出と定住促進

出会い

「京都丹波でときめき」出会いの場創出事業

◆目的

管内の若者や大学(校)生同士の出会いの場を創出するとともに、医療分野や林業での担い手確保や地元定着を促進

◆対象

管内の若者、大学（校）生（公立南丹病院看護学校、林業大学校等）

◆内容

・京都丹波地域の強みである「自然」「農業」「スポーツ・アウトドア」「地域の特産品」などに焦点をあてた恋活事業をＮＰＯ法人等に委託実施

・京都丹波写ガール隊のデートスポット紹介動画を活用した情報発信等

若者定住促進

学生を囲む会開催事業

◆目的

学生の新鮮な意見を少子化対策に反映し、地元への就職や定住を促進

◆対象

管内の大学（校）生（公立南丹病院看護学校、林業大学校等）

◆内容

京都丹波地域の多くの大学(校)等の学生と行政（振興局、市町）との意見交換の場を設定し、直接、若者の意見・希望などを聞き、少子化対策に反映

Ⅲ　京都丹波地域の豊かな自然文化や充実した結婚、妊娠・出産、子育て支援施策を進める

結婚

京都丹波で結婚生活キャンペーン事業

◆目的

若者の結婚へのイメージを前向きにし、京都丹波地域での結婚・定住を促進

◆対象

京都丹波地域に在住・通勤している未婚者

◆内容

・豊かな自然環境や充実した子育て支援策など、意外と住みやすい京都丹波地域をＰＲし、セミナー等のキャンペーンを開催

・幸せな結婚生活に関する歌、作文、俳句などを募集しＰＲ

・親の結婚記念日ごとに子どもが成人になるまで地元農産物を配り、家族での祝福の場を支援。

結婚・子育て

「未来のパパ・ママ」育成事業

◆目的

児童、学生に赤ちゃんや子育てを身近に感じてもらう

◆対象

小学生、中学生、高校生、大学生

◆内容

児童及び学生が子どもと触れあう機会を一層推進するととも､子育て中の母親と話す機会として子育て支援団体へ学生ボランティアを斡旋。また、子育て支援団体に、児童を対象とした活動の体験学習を委託実施

妊娠・出産

こうのとりサロン開設支援事業

◆目的

妊娠期のみならず、出産後までの不安解消も図る

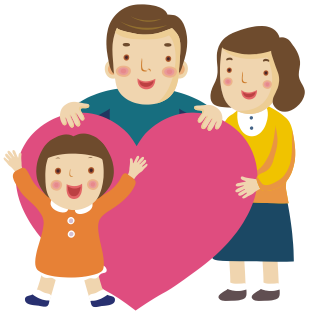
◆対象

妊婦、出産後の母親

◆内容

子育て支援団体に委託して妊娠中から集えるサロンを市町単位で開催

子育て



働くパパ・ママ応援事業

◆目的

子育て中の父親と母親の負担を減らす

◆対象

子育て家庭

◆内容

産休や育休の取得実績に応じた補助金制度の創設。また、企業内保育を充実させた企業等への助成制度。さらに、企業等と協同して、病児・病後児保育、夜間保育実施施設の拡充を図る

京都丹波「子育て村」推進事業

◆目的

子育て家庭に優しい地域のＰＲ

◆対象

子どもを希望する家庭、子育て家庭

◆内容

子育て経験がある先輩（地域の高齢者）が親代わりになって支援。地域住民とタレントが協同し「子育て村」を創り上げる企画を募集

京都丹波みんなで子育て応援事業

◆目的

京都丹波地域で積極的に活動する子育て支援団体の活動をより充実させ、地域住民主体の子育てを支援

◆対象

京都丹波地域内の子育て支援団体

◆内容

子育て支援リーダーの養成研修会を開催。また、管内の子育て支援サークルの交流会や民間企業とのコラボした子育て支援イベント等を実施

京都府子育て支援総合交付金（仮称）の創設

◆目的

市町で取り組まれている子育て支援の取組を、府が財政的に応援

◆対象

市町

◆内容

市町の規模や地域性等を考慮し、市町が画一的でない取組が出来るようメニュー方式の総合交付金制度を創設　《メニュー例》結婚、妊娠・出産、子育て、医療費助成、チャイルドシート購入助成等、上記事業子育て支援関連事業等

子育て・雇用創出

保育の担い手である準保育士（仮称）資格の創設（国への要望）

◆目的

高い専門性を持つ保育士の人材不足という課題がある中、雇用創出を図るとともに子育て支援の充実をはかるために保育の担い手を増やす

◆対象

育児経験があり保育に関心のある者

参考資料

1　京都丹波地域少子化対策戦略会議委員

氏名	所属等	備考
井内　邦典	亀岡あゆみ保育園　園長	民間保育園
今川　晃	同志社大学　政策学部長	大学･教育機関
今西　仲雄	京都府南丹広域振興局　局長	行政
大川　倫正	京都丹波に転入してきた子育て世帯	転入世帯
栗山　正隆	亀岡市　市長	行政
佐々木　稔納	南丹市　市長	行政
塩貝　泰彦	京都産業大学法学部　４回生	若者（学生）
田中　美賀子	（特非）亀岡子育てネットワーク　理事長	子育て支援サークル
寺尾　豊爾	京丹波町　町長	行政
西村　紗矢香	京都丹波・写ガール隊（京丹波町職員）	若者（就労者）
長谷川　清隆	京都府立須知高等学校　校長	教育
俣野　健二	連合京都亀岡地区協議会　代表	労働関係団体
眞継　公哉	JA京都青壮年農業経営者クラブ　会長	農林団体
吉田　辰男	世木地域振興会　副会長	地域振興団体
和久田　勝之	京丹波町商工会青年部　部長	経済団体

2　京都丹波地域少子化対策戦略会議　開催状況

回数	日時	場所	議題･内容
第1回	平成26年8月26日(火) 午後6時～8時	園部総合庁舎 ABC 会議室	(1)京都丹波地域における少子化対策の現状について (2)各関係分野における少子化対策の現状･課題について　他
第2回	平成26年10月24日(金) 午後6時～8時	園部総合庁舎 ABC 会議室	京都丹波地域における少子化対策について意見交換
第3回	平成26年12月8日(月) 午後6時～8時	園部総合庁舎 ABC 会議室	京都丹波地域におけるストップ少子化にむけた提言（案）について意見交換

3 プロジェクトチーム会議

（1）メンバー

京都府南丹広域振興局

●企画総務部　企画振興室

●農林商工部　企画調整室、商工労働観光室、地域づくり推進室

●建設部　南丹土木事務所　企画調整室

●南丹教育局　総務課

●健康福祉部（南丹保健所）　企画調整室、福祉室（事務局）

（2）会議開催状況

回数	日時	場所	議題・内容
1	平成26年8月1日（金） 午後1時30分～2時30分	亀岡総合庁舎第5会議室	プロジェクトチームの設置　他
2	平成26年9月19日(金) 午後1時30分～3時	南丹保健所図書室	少子化対策に向けた取組に関する意見交換　他
3	平成26年10月3日(金) 午後1時30分～3時	亀岡総合庁舎第5会議室	少子化対策に向けた取組に関する意見交換　他
4	平成26年11月7日(金) 午前11時～12時	亀岡総合庁舎第3議室	平成27年度当初予算に関する協議　他
5	平成26年11月19日(水) 午前10時～11時30分	南丹保健所図書室	来年度当初事業・提言(案)に関する協議　他
6	平成26年11月25日(月) 午後1時30分～3時	南丹保健所相談室	提言(案)に関する協議
7	平成26年11月27日(木) 午前10時～11時30分	南丹保健所講堂	来年度当初事業・提言(案)に関する協議　他

4 座談会等

対象	日時	場所
京都府立林業大学校　（学生　5人）	平成26年10月2日（木） 午後4時30分～5時30分	京都府立林業大学校
京都学園大学（学生　6人）	平成26年10月9日（木） 午後3時～4時10分	京都学園大学
明治国際医療大学（学生　15人）	平成26年10月10日（金） 午前11時40分～12時40分	明治国際医療大学
子育て支援サークル・団体（27人）	平成26年10月9日（木） 午前11時40分～12時30分	南丹保健所講堂
働く若者（5人）	平成26年11月12日（水） 午後6時30分～7時30分	ガレリアかめおか
京都丹波地域の魅力で転入してきた世帯（3世帯4人）	平成26年11月12日(水) 午後4時～6時 平成26年11月18日(火) 10時～11時	京丹波町 亀岡市
京都府新規採用職員	平成26年10月10日(金) 午後1時15分～午後2時45分	ガレリアかめおか

5 先進地調査

調査先	日時
大阪府田尻町	平成26年10月8日（水）　午後1時30分～3時
石川県川北町	平成26年10月30日（木）　午後1時30～3時30分

資料編

■　京都丹波地域少子化対策戦略会議開催結果(概要)　２４～２６頁
■　座談会等開催結果　２７～３２頁
■　先進地調査結果　３３～３４頁
■　京都丹波地域における少子化対策アイディア　３５～５６頁

■京都丹波地域少子化対策戦略会議開催結果（概要）

≪第1回（平成26年8月26日(火)）≫

○ 議題

京都丹波地域における少子化の現状・課題について

○ 主な委員の発言

（少子化対策・人口減少対策全般）

- 少子化対策・人口減少は複合的な問題であり、総合的な視点から分析し対応が必要
- 人口減少は深刻な問題である。この問題を考えるきっかけ作りを行政がつくる必要がある。
- 「人と人とのふれあい」を基盤にしながら、「地域の豊かさ」を把握し、京都丹波地域の少子化対策を検討していくことが大切。

（地域振興・定住促進）

- 急速に発展した京都丹波地域の交通網を生かし、交流人口を定住人口に結びつけていくことが重要
- 限界集落ではインフラは整っていないが、「豊かな自然」を生かした地域振興を進めることが重要
- 「職住一体」のまちづくりを進めるためには、これまで以上の規制緩和が必要
- 京都丹波地域の豊かな自然の中で充実した生活ができていると実感、若者が「この地域で住みたい」と思えるような地域づくりが必要である。

（出会い・結婚）

- 近くで安心して参加できる「出会いの場」を提供してほしい。
- 新規就農者にとっても結婚は大きなハードルであり、行政、団体による出会いの場づくりが必要。

（出産・子育て）

- 「一人目の出産」での経験が大切。ここでのサポートをしっかり行うとともに、夫婦で子育てをする意識、体制づくりが重要である。
- 現在の子育て世代は、①子育てに対する不安、②子育て環境の厳しさ（子どもを預ける場所が少ない、母親の再就職が困難）を抱えている。

≪第2回(平成26年10月24日(金))≫

○ 内容

京都丹波地域における少子化対策について意見交換

○ 主な委員の発言

（地域振興・定住促進）

- 道徳教育や地域の祭りへの参加等により、小さい頃から愛郷心を育てることが重要である。
- 空き家を活用して若者や子育て世代に住んでもらい、地域活性化に結びつける。
- 京都丹波地域は京都縦貫道が開通することでさらにアクセスが良くなり、また、美山のような魅力的な観光地があるので、交流人口を増やし将来的には定住人口の増加につなげていきたい。

（雇用）

- 非正規雇用職員が増えているので、正規雇用職員を増やすために企業への助成等を検討してほしい。
- 一人一人へのきめ細やかな支援も重要であり、仲人のような地域の「お世話人」を設置することが出会いのきっかけにもなる。

（出産・子育て）

- 若い世代が、子育てにポジティブなイメージを持つとともに、親になる準備をしてもらうための取組を実施してほしい。
- 各地域で様々な子育て支援団体が育ってきているので、行政に支援してもらいたい。

≪第3回(平成26年12月8日(月))≫

○ 内容

（1） 現状・課題等について

（2） 提案施策について

○ 主な委員の発言

（現状・課題について）

- 「愛郷心は短期間で育てられるものではなく、「里山保育」の導入を課題に盛り込んでほしい。
- 「教育の振興」に係る記載を充実してほしい。
- 子育てサークル等民間の取組みで足りない部分を補う施策を実施するためには、既に取り組まれている事業をデータベースにより一元化する必要がある。
- 学童保育の必要性も課題に含めてほしい。
- 「子育て」に関する課題を一つの項目として書き込んでほしい。
- 婚活については、婚活教室や婚活大学などのように継続的に行う必要がある。

（施策提案について）

- 最近の若者は就職ではインターネットの就職サイトで検察している。商工関係の仕事をしてみて、この地域に多くの中小企業があることを知ったので、学生等に発信していくことが大切。
- 子育てや介護は人間本来の仕事であるが、将来、福祉分野は人手不足で成り立たなくなる。
- 「準保育士」などの新しい専門資格の創出が必要である。
- 中学生と赤ちゃんとのふれあい事業や、中学生、高校生が保育所で子育て体験できる取組が大切。

（サブタイトルについて）

- 子育てを楽しむような、やわらかい感じのものがよい。

（その他意見）

- 高齢者が地域の公共交通機関を無料で利用できる助成が必要。
- 集客施設誘致にあたり商店街や既存の個人経営者への配慮も必要。
- 半農半Ｘで生活できる場所、新規農業従事者への所得保障の充実が必要。
- 学校教育においても観光甲子園などの地域に密着した取組を行うことで好循環が生まれる。

■座談会等開催結果

意見聴取団体等	京都府立林業大学校
日　時	平成２６年１０月２日(木)午後４時３０分～午後５時３０分
場　所	京都府立林業大学校
出席者	５名(主な出身地　京都市、秋田県、大阪府)
主な聞き取り内容	**１　地域で家庭を築く若者の増加策** **◇雇用の創出・活性化　◇人口の流出防止・定着化促進　など** 〇京都丹波のＰＲ ・京都丹波はどんな作物も作れる良い土地。黒豆、丹波ぐりなど美味しい特産品がある。袋のデザインに「モエキャラ」（あきたこまち）や「うどん県」（香川県）のように突出した特産物を使ってうまくＰＲすれば売れ、その波及効果で地域活性化につながる。 ・林道を活用しロードバイクによる「ツーリングツアー」で若い男女を呼び込み、出会いの場、定住化につなげる。同様に「南丹一周トレイル」をつくり、登山客を呼び込む。 〇京都丹波の課題の対応 ・医療機関が弱い。山林作業でケガをしたときの救急対応に不安（旧和知町） ・地域開発（交通機関）は進んだといえ、地域外に出るのは不便 ・少子化対策、地域振興施策のＰＲ不足。若者がこの地域に住もうとすれば、様々な選択肢があると思えるような施策が必要。 **２　出生率を高めるための施策** **◇出会い、結婚、妊娠・出産　　◇子育て支援　など** ・参加者が一年生のためか、結婚、子育て関係について意見はなかった。 **３　その他** ・学生は、将来、林業分野を調整できる行政職員、樹木医、地元に帰って林業のリーダーになりたいなど、自分の意志、目標をしっかり持って発言をしていた。夢を実現する中で京都丹波の発展にも関わってほしい、と思われた。

意見聴取団体等	京都学園大学
日　時	平成２６年１０月９日(木)午後３時～午後４時１０分
場　所	京都学園大学
出席者	６名（出身地：京都市、亀岡市、奈良県、静岡県、大分県、埼玉県）
主な聞き取り内容	**１　地域で家庭を築く若者の増加策** **◇雇用の創出・活性化　◇人口の流出防止・定着化促進　など** 〇駅前などに賑わいを創出 ・若者が集い、楽しめるショッピングモールやカフェなどがほしい。 ・おしゃれな飲食店があまりなく、京都市内まで出ている。 〇豊かな自然環境を活用 ・京都丹波地域の名跡などを売り出す ・ほどよい田舎や静かで住みやすいことを売り出す **２　出生率を高めるための施策** **◇出会い、結婚、妊娠・出産　　◇子育て支援　など** ・　出席者６名とも、いずれは結婚したいと考えている。子どもも２人か３人はもうけたい。 ・　合コンや出会いのイベントなどは、まだ、現実味がなく参加には否定的（特に女子学生）

意見聴取団体等	明治国際医療大学
日　時	平成２６年１０月１０日(金)１１時４０分～１２時４０分
場　所	明治国際医療大学１０号館６階６１教室
出席者	１５名(主な出身地 京都府、兵庫県、大阪府、岐阜県、三重県、岡山県、熊本県 東京都 沖縄県)
主な聞き取り内容	**１　地域で家庭を築く若者の増加策** **◇雇用の創出・活性化　◇人口の流出防止・定着化促進　など**
	・　京丹波地域への留学制度を作る。 地域に住まないとその地域の良さはわからない。 ・　京丹波地域への仮移住体験（空家等を活用した居住体験） ・　「くまもん」のように地域の「ゆるきゃら」の知名度を上げる。 ・　アウトレットモールを誘致して地域を活性化。 ・　メディアを活用した地域振興（婚活番組の誘致等） ・　地域限定の通貨を作り楽しみを増やす。 ・　地域の観光資源の PR（地域の祭など） ・　山の整備（ハイキング道の整備） ・　交通の便を良くして、丹波自然公園の魅力を伝える。 ・　卒業直後のキャリアアップが保障されるならこの地域で就職も可能 ・　住居の近くに勤務地があるのが理想。 ・　地域に若者が働く場を増やす。 ・　電車、バスの増発（小型化)、インフォーマルな送迎サービス。管内の路線バスは運賃が高いので割引券を発行。 ・　JR 園部駅周辺に生活に便利な施設や店舗を増やす。 ・　歩いて行ける範囲に役所や郵便局・銀行・病院があれば良い。 ・　若者がついていけるよう、田舎の慣習の改革が必要
	２　出生率を高めるための施策 **◇出会い、結婚、妊娠・出産　　◇子育て支援　など**
	・　婚活パーティーを実施して出会いの場をつくる。 ・　出産費用や子ども医療費の助成。２人目から助成の増額。 ・　子育て手当 2 万円が支給されたが単発ではなく継続してほしい。 ・　保育料を安くする。(所得にかかわらず一律負担に) ・　第３子が生まれたら軽自動車贈呈。 ・　仕事と育児の両立を図るための多様な働き方、制度の充実。 ・　家の近くに仕事と保育所が揃っている。 ・　夜間保育や学童保育。 ・　ママ友会があると母も子もアドバイスがもらえ助かる。 （男子学生の実母・自身の体験から） ・　子育て支援に高齢者を育児指導者として積極的に活用。 ・　父親サークルを増やす。 ・　子育て支援策の積極的な PR ・　赤ちゃん専用店補。 ・　不妊治療への支援。
	３　その他 ・　他府県出身者が多く京都丹波地域への就職希望者が少ない。同じ待遇であれば交通が利便な都会の職場を選ぶ。 ・　若者がちゃんと就職できること。消費税アップは痛い。 ・　国は外国人の移住計画も考えているが、生活様式の違いなどがあり難しい。

意見聴取団体等	京都丹波地域の子育て支援団体・サークル
日　時	平成２６年１０月９日(木)午前１１時４０分～１２時３０分
場　所	南丹保健所講堂
出席者	２７名(主な出身地　京都府)
主な聞き取り内容	**１　地域で家庭を築く若者の増加策** **◇雇用の創出・活性化　◇人口の流出防止・定着化促進　など** ・　行政主体の空き家の斡旋 ・　バスの運行本数が少なすぎるので、送迎ボランティアがいればいい ・　京都市内への通勤定期割引制度 ・　芸術に触れることのできる機会・場所が少ないので、行政にイベント等を主催してほしい ・　農作物が荒らされることを防止し、子どもの通学の安全を守るために有害鳥獣対策を実施 **２　出生率を高めるための施策** **◇出会い、結婚、妊娠・出産　　◇子育て支援　など** ・　産前・産後ケア講座など、子育ての不安を解消できるような勉強の機会があればよい ・　子育てに関する意見が気軽に言えるように、スーパーなど人が集まる場所に意見箱を置く ・　子育て当事者は収入がないか、もしくは低いので、参加料を安くするために公民館など有料施設の無償化ができればよい ・　子育ての先輩からサポートしてもらえる「場所」(民家等)が必要 ・　休日保育所の設置 ・　定年退職者・高齢者に子育て支援に参加してもらうことで、高齢者の生き甲斐対策、子育て中の母親の支援が両立 ・　子育て支援サークル・団体で活動してもらえる学生ボランティアの斡旋機関があればよい ・　子育て中の女性が正社員として働くためには、確実に子どもを預かってくれる場所が必要 **３　その他** ・　最近の若者には「仕事がない→結婚できない→子どもがいない」というケースが多い ・　地域の役員や集会が男性主体のため、行政情報が女性に届かないことが多い ・　行政組織が縦割りで、うまく連携出来ていないように感じるので、子ども・子育てに関する窓口を１つにしてほしい

意見聴取団体等	働く若者
日　時	平成２６年１１月１２日(水)午後６時３０分～７時３０分
場　所	ガレリアかめおか
出席者	５名（出身地:福知山市、南丹市、亀岡市、甲賀市）
主な聞き取り内容	**１　地域で家庭を築く若者の増加策** **◇雇用の創出・活性化　◇人口の流出防止・定着化促進　など**
	○　雇用 ・　京都丹波地域の働く場所をもっと増やしてほしい。 ・　非正規雇用が多いと若者も将来のライフスタイルを描きにくいので､若者が家庭を築いて働き続けられるように正規雇用を増やすような大胆な施策を期待したい。 ○　基盤整備 ・　幹線道路が国道９号線のみであり、交通網を広げてほしい。 ○地域活性化 ・　休日に人が集まるような大型ショッピングモールや、豊かな自然と道路を生かしたカーレースイベント等を実施し、集まった人に京都丹波地域の居住地としての魅力を伝えられれば、交流から定住に結びつけられる。
	２　出生率を高めるための施策 **◇出会い、結婚、妊娠・出産　　◇子育て支援　など**
	・　子育て支援 ・　予防接種など、子育て当事者が集まるところに「地域の世話人」を送り込み､地域の人が子育て家庭に直接声をかけられるような関係づくりを実施してはどうか。 ・　出会い、結婚 ・　行政主体の「恋活・婚活」には、安心して参加できる。 ・　若い世代は「恋活・婚活」とストレートに表現されると抵抗を感じる人もいるので、趣味を同じくする人が集まりやすいようなイベントを開催すれば、自然と男女の出会いの場になる。

意見聴取団体等	京都丹波地域の魅力で転入してきた子育て世帯
日　時	平成２６年１１月１２日(水)午後４時～６時、１８日(火)１０時～１１時
場　所	京丹波町、亀岡市
出席者	３世帯４人(出身地:大阪府、兵庫県、石川県、福岡県)
主な聞き取り内容	**１　地域で家庭を築く若者の増加策** **◇雇用の創出・活性化　◇人口の流出防止・定着化促進　など** 〇雇用創出 ・　「障害者スポーツセンター」ができると福祉事業所がメンテナンスやクリーニングに参入でき、障害者の雇用、仕事を増やすことに繋がる ・　田舎ではパートはあるが、正規職員の働き口を探すのは困難 〇地域活性化 ・　南丹・亀岡地域に運動公園等があり土日に域外からスポーツをするため来る人が多い。美山にはサイクリングコースも整備され、案内板、マップ等のサポートも充実している。南丹地域＝スポーツのイメージを高めるべき ・　地域住民、プロも利用可能な「障害者スポーツセンター（仮称）」（障害者向けトレーニング施設、脳性麻痺の方向けのプール、ボランティアセンター等）を作り、南丹地域を「障害者スポーツのメッカ」にしたい。現在、府内の「障害者スポーツセンター」は京都市の１カ所のみである。南丹地域に「障害者スポーツセンター」が出来ることで北中部の方の利便性の向上と、南丹地域への入り込み客の増加が見込める 〇定住促進 ・　京都丹波地域の空き家需要は高いと思うが情報が少ない行政が空き家情報を発信すれば、希望者は安心して空き家を探すことができる。綾部市では民間が積極的に空き家情報を発信し紹介しているので、連携した取組も必要ではないか ・　施策として「就農支援」と比較すると、「移住者支援」が充実していない。就農希望者向け、商業者向けの移住者への総合案内窓口があればと思う ・　農業のため移住した人で鳥獣被害が多くやめる人がいる ・　JR の駅が近くにはあるが、１本／時間程度しか列車がなく、普通電車で停車しない列車もあり不便 ・　インターネット（光回線）があれば情報収集、情報発信もでき、買い物にも困らない ・　京都まで１時間、神戸まで２時間圏内、インターネット（光通信）環境、雪が少なく田畑があり、水がおいしいこと、さらに人間関係が排他的でないことを移住の条件としていたが、上記条件に合致し、手作り市の先駆けで「市」が多く開催される京都市に近い京丹波町を選択して田（0.7 畝）付きの空き家を購入。 **２　出生率を高めるための施策** **◇出会い、結婚、妊娠・出産　　◇子育て支援　など** 〇子育て支援 ・　補助金ではなく、子育てに関する費用を全て無料化してほしい ・　３人子どもがいるが、同じ教材を３回購入するのは負担が大きい **３　その他** ・　都会育ちで都会のマイナス面を見てきたことも、田舎暮らしをする動機になっている ・　京丹波町では毎年、町長、議員等が町内を巡回して公民館単位で住民との話合の場を持っており、きめ細かな対応は田舎の良さである

日　時	平成２６年１０月１０日(金)午後１時１５分～午後２時４５分
場　所	ガレリアかめおか　大広間
出席者	平成２６年京都府新規採用職員　約１６０名
主な意見	**１　地域で家庭を築く若者の増加策** **◇雇用の創出・活性化　◇人口の流出防止・定着化促進　など**
	○　雇用創出 ・ 企業誘致 ・ 農業インターンシップの実施 ・ 農地バンク・貸し農園の整備 ・ 南丹版就農フェアの実施 ・ 退職前後の人を対象としたインターンシップの導入 ○　地域活性化 ・ 宿泊施設・観光施設の増加 ・ 滞在型の観光ツアーの実施により、交流人口を定住人口に結びつける ・ 地元企業を巻き込んだイベントの実施 ・「豆―１」グランプリの実施 ○　定住促進 ・ 空き家の活用
	２　出生率を高めるための施策 **◇出会い、結婚、妊娠・出産　　◇子育て支援　など**
	○　出会い ・ 就農者向け婚活の実施 ○　子育て支援 ・ 老人ホームと幼稚園を連携させ、高齢者に子育て支援に携わってもらう ○　里山保育
	３　その他 ○　情報発信 ・ 雑誌やFacebookなどのSNSを活用した若者による情報発信 ・ 特産品を使ったメニュー開発 ・ 京都丹波地域のキャッチコピーを作る ・ 芸能人の京都丹波地域での生活をメディアで放送 ○　教育 ・ 幼稚園から大学までの連携 ・ 子どもの農業体験

■先進地調査結果

調査先	大阪府田尻町
日　時	平成２６年１０月８日(水)午後１時３０分～３時
聞き取り対象者	辻　田尻町企画人権課長　　（元町財政担当）
主な内容	**１．少子化の現状** ・　田尻町は、周囲６ｋｍの小さな町であり、繊維不況で数社あった紡績工場が撤退し大幅な人口減となった。 　その後、関空が起爆剤となり、「りんくうタウン」「空港島」工事で面積が３倍に増え、その固定資産税で不交付団体となる。 ・人口増加の要因は、紡績工場跡の宅地化、りんくうタウンへ移転した府営住宅跡地の再開発、りんくうタウン（社宅・警察学校）への転入による社会的増である。 《人口の推移》 Ｓ４９　８，５００人　ピーク時 Ｈ７　６，３００人　紡績会社の衰退 Ｈ２６　８，７０３人　現在 ・地域特性として、大阪まで電車で４０分の利便地にあり、小さな町特有の「人と人の顔が見える安心感」がある。 ・市街化区域での住宅開発はほぼ終了。あとは、市街化調整区域をどう開発するかが課題。
	２．取組状況 《主な事業(田尻町独自事業)》 ・子ども医療費無料化の拡充 入院・通院：　　→中３ ※大阪府乳幼児医療費助成(入院:修学まで、通院:２歳まで) ・妊産婦乳幼児健康事業の充実 Ｈ２　１６７万円　→　Ｈ２５　１，４００万円 ・幼稚園就園補助 ・不妊治療費補助（Ｈ２７予定） ・新婚家庭家賃補助（Ｈ１０～Ｈ１５）　※分譲住宅整備が進み廃止 ・国際理解 英語検定の受験料の全額補助

調査先	石川県川北町
日　時	平成２６年１０月３０日(木)午後１時３０分～３時３０分まで
聞き取り対象者	福祉課　大山　保　課長／住民課　大山　恭功　課長補佐
主な内容	**１．少子化の現状** ・ 過去１０年間で人口は増加 男　性　⑯２，６１１人→㉖３，０７９人（４６８人増） 女　性　⑯２，７７５人→㉖３，１９５人（４２０人増） 総人口　⑯５，３８６人→㉖６，２７４人（８８８人増） ・ 平成１４年から１８年にかけて、民間主導で新興住宅を開発した影響で、転入者が増加したと推測される。 ・ ２０歳～３９歳人口はほぼ横ばい（⑯７６８人→㉖７６２人） ・ ０～１４歳の年少人口割合は２０．５％（県下１位） **２．取組状況** 《主な先進的事業》 昭和５９年に松下電器産業（株）石川工場を誘致し成功。増加した収入を基に、福祉施策等を充実させている。 ・ 公共料金の低廉化（平成５年度～） 水道料金１ヶ月１０トンまでは無料（超過１トン５０円） 下水道料金　定額２，０００円／月 ・ 医療費の無料化（平成９年度から段階的に年齢を引き上げ） ０歳～１８歳まで、高齢者（７５歳以上、引き続き５年間住所を有すること） 一人親家庭、寡婦、身体障害者（３級以上） ・ 不妊症及び不育症治療費助成（不妊症：平成１２年度～、不育症平成２５年度～） ・ 基準額１００万円（７０万円限度、３割個人負担）　※第１子に限る ・ インフルエンザ予防接種助成 １歳以上～１８歳及び６５歳以上は全額助成、１９歳以上６５歳未満は２，０００円　※一人１回／年 ・ 出産育児一時金  **３．その他** 「小さいからこそ　キラリと輝く　ふるさと川北」をテーマに、住民の住みやすい町づくりを目指して先進的な施策を全国に先駆けて実施した結果、転入者が増加し人口が増加したと考えられる。 企業からの固定資産税は、設備の減価償却の下げ幅が大きいため、安定した収入とはなっていない。

	国民健康保険以外	国民健康保険加入者
第1子	―	42万
第2子	10万	52万
第3子	20万	62万
第4子以降	30万	72万

京都丹波地域における少子化対策アイデア

番号	大項目	小項目	アイデア・意見
1	雇用創出	企業誘致□	・働ける企業の創設 企業誘致は効力不足。官民協働による壮大な街づくりプロジェクトが必要。 （例）観光と連携した総合リゾート複合施設を官民一体で創設（行政主導） （テーマパーク、温泉、サファリ、遊園地、カジノ、ホテル、飲食店、美術館、アウトレット等）
2		企業誘致□	・企業の誘致
3		企業誘致□	・雇用の創出が必要であり、整備された道路交通網を強みにして、さらに企業誘致に取り組む。
4		雇用創出	・田舎ではパートはあるが、正規職員の働き口を探すのは大変
5		雇用創出	・経済的な安定があれば、結婚、出産と未来も描きやすくなると思うので、やはり安定した職というのは大切だと思う。地域に若者が根付くような安定した雇用を創出
6		雇用創出	・地域に若者が働く場を増やす。
7		雇用創出	・卒業直後のキャリアアップが保障されるならこの地域で就職も可能
8		雇用創出	・住居の近くに勤務地があるのが理想
9		雇用創出	・雇用場所の選択の幅を広げる。
10		雇用創出	・半農半Xで地元で働き続けられる雇用の創出
11		雇用創出	・半農半Xで生活できる働く場所がほしい。京丹波町からは亀岡市・南丹市での就労が可能だし、亀岡市・南丹市では京都市内などの就労ができるので、亀岡市・南丹市に就労場所が増えれば、京丹波町に住みながらの通勤が可能となる。
12		雇用創出	・雇用の選択が出来ること（様々な分野の企業を誘致）
13		雇用創出	・地産地消できるもので雇用の促進
14		雇用創出	・地元産の野菜などの消費拡大と雇用創出を目指して、管内の公共施設や主要道路沿いの空きスペースなどで、地元産の米や野菜・果物を使った料理・スイーツを定期的（例えば毎週土・日）に販売
15		雇用創出	・安定した職につけるような雇用対策
16		雇用創出	・ 非正規雇用が多いと若者も将来のライフスタイルを描きにくいので、若者が家庭を築いて働き続けられるように正規雇用を増やすような大胆な施策を期待したい。
17		雇用創出	・地元企業の採用枠拡大
18		雇用創出	・他府県出身者が多く京都丹波地域への就職希望者が少ない。同じ待遇であれば交通が利便な都会の職場を選ぶ。

番号	大項目	小項目	アイデア・意見
19	雇用創出	雇用創出	・保育や介護は人間本来の仕事だと思うが、将来、この分野は人手不足により成り立たなくなると思われるので、「準」保育士などハードルを低くして養成していくなど新しい専門資格の創出が必要
20		雇用創出	・農業インターンシップの実施 ・農地バンク・貸し農園の整備 ・南丹版就農フェアの実施 ・退職前後の人を対象としたインターンシップの導入
21		特区設置・規制緩和	・都会にいなくてもこの地域（在宅）で、インターネットを利用して不特定多数の人を相手に商売を立ち上げる人への特区〈税制優遇・補助〉を設置
22		特区設置・規制緩和	・税制改正による企業の地方移転優遇制度の創設
23		農林業振興	・農林業の企業、組合化
24		農林業振興	・農業ノウハウを教える会の開催
25		農林業振興	・新規就農をサポートする制度のより一層の充実。情報発信
26		農林業振興	・京都丹波地域の農山村地域にあっては、農林商工連携による、6次産業化などで、若者が経済的にも安定して就労できる場を確保
27		就労支援	・子どもの頃から地域企業を身近に感じてもらうための、児童（もしくは中学生）への職業体験的な企業見学の斡旋
28		就労支援	・地元高校卒業者を採用した企業へ給与補助
29		就労支援	・都会企業との給与格差をなくすため零細企業従業員へ補助金
30		就労支援	・高校時代のアルバイトがきっかけで卒業後アルバイト先へ就職する事例あり。高校生のアルバイト募集に対する補助金
31		就労支援	・大学卒業後、義務教育（もしくは高校）を受けた地域の企業に就職した者は返済免除とする奨学金制度
32		就労支援	・派遣や使い捨てのアルバイトにならない社会や、しっかりした大人に育つための教育の充実
33		就労支援	・不安定就労の解消（所得保証）
34		就労支援	**・結婚・出産を機に退職した女性の再就職支援 （女性と地元企業・団体等のマッチング事業）**
35		就労支援	・最近の若者は就職ではインターネットの就職サイトで検察しており、この地域に多くの中小企業があることを学生等に発信することが大切
36		就労支援	・ワーク・ライフ・バランスなど、社会意識の変化も重要

番号	大項目	小項目	アイデア・意見
37	地域活性化	全　般	・ハード面などの中長期的な取り組みについては、過疎対策事業債や合併特例事業債などの有効な財源が活用できる期間を重点に、また、短期的・集中的な取り組みについては、本プランの4年間に積極的に進め、その後財政面を踏まえて見直しながら進めていく必要がある。
38		全　般	・今後、対外的にまちの魅力や特徴を発信する「シティセールス」の手法を取り入れ、定住促進アクションプランの総合ホームページや定住ガイドブックの作成、集落の教科書づくりなどを計画しているほか、職員が積極的にセールスマンとしてPRを行なったり、観光や特産品のPRと連携することで、積極的にまちの特色・魅力をアピールして知名度を高める。
39		全　般	地域の魅力の発掘と発信 第1ステップ ① 地域魅力の勉強会開催 ② 地域版Facebookの作成 ③ 地域組織との連携 　水資源機構 ④ 外部組織との連携 　京都聖母女学院短大 　LA　Himawari 第2ステップ ① 魅力拠点のネットワーク化 ② 講演会の開催 ③ 梅若街道（多目的、歴史をコンセプトにした活性化ゾーン） ④ 産業、農林業、加工業（六次限化）の設立と就労
40		全　般	・都会的なものを真似するのではなく、この土地ならではの特徴を活かした地域づくり
41		全　般	＜メリット＞ 〇自然があり、静かな環境 ＜デメリット＞ 〇交通網が貧弱→官民一体のプロジェクトとして交通網の整備が必要 〇企業が減少傾向（H15年6003事業所→H24年5894事業所）であり雇用が減少 〇日常的に使える余暇施設がない。→楽しく余暇を過ごせる地域ではない。
42		全　般	・地域限定の通貨を作り楽しみを増やす。
43		基盤づくり	・街づくりの結果として、暮らしやすい街、未来の可能性を秘めた街、魅力ある街となり、地域活性化や定住促進となる。
44		基盤づくり	・インフラ整備とその拡充（病院、道路、学校、スーパー、企業（雇用）、安心感（保育所）
45		基盤づくり	・この地域でメリットを出すために移動手段の充実を考えてほしい。京都市内では高齢者は市バスなどは無料であり、この地域でも公共交通機関は無料になるような助成があればよい。
46		基盤づくり	・ 幹線道路が国道9号線のみであり、交通網を広げてほしい。
47		基盤づくり	・交通の便を良くして、丹波自然公園の魅力を伝える。

番号	大項目	小項目	アイデア・意見
48	地域活性化	基盤づくり	・まちづくりを地域全体で考えるには、地域コミュニティを育み、地域の創意工夫による取り組みを推進することが重要であるため、京都府の「地域力再生プロジェクト交付金」のような事業をさらに取り入れてはと考える。併せて、地域支援による取り組みを活発化させることにより地域力を高め、すべての人々が協働してまちづくりに参画する仕組みを構築することも重要
49		基盤づくり	・JR園部駅周辺に生活に便利な施設や店舗を増やす。
50		基盤づくり	・歩いて行ける範囲に役所や郵便局、銀行、病院があれば良い。
51		人と人のつながり	・愛郷心向上教育　・人間関係の円滑化
52		人と人のつながり	・パブリックイメージ向上の為のイベント実施（村まつり等）
53		人と人のつながり	・結婚して親と同居もしくは実家から5km圏内に居住する場合、地域のスーパーや農産物直売所で使える割引カード（家族割り）を配布。月に1回家族割りの日を設けてもらうよう地域のスーパーや農産物直売所に協力を要請
54		魅力再確認	・世木地域は森の地域である。田畑が少々あるが森が大きく多い地域である。この地域の少子化対策を考えると、森を生かし、森と田畑とどの様に調和を出来るライフスタイルを構築するかがテーマであるが、限界集落化しているこの里の蘇生は「元快集落」にと意識を変え、本物志向で田舎、自然大好きな人をクラインガルテン（農地の貸借制度）を導入して、人園関係（旧、新住民）のコミュニケーション深交により、定住してもらえる様にしたい。親切で思いやりあふれる地域づくり、人づくりをスタンスしたい。
55		魅力再確認	・雇用や福祉が充実しても地域に魅力がなければ定住しようとはなかなか思いません。 京都丹波は暮らすには少々不便ですが、子育てするには良い環境が整っています。そこをもっとアピールすれば良いと思いますが。
56		魅力再確認	・仕事があることを強調
57		魅力再確認	・京都丹波地域の良いところの再発見・再確認。インターネット等で情報を発信し、地域外の方に魅力を知ってもらうだけでなく、在住の方に良さを再認識してもらう。
58		魅力再確認	・地元の方が意外とその土地の歴史を知らないが、知ることで感動があり誇りが生まれるので、地域再発見イベントなどが大切と思う。
59		魅力再確認	経済基盤の確立 第1ステップ ① 丹波黒大豆のブランディング ② 生産性向上のための設備導入（まず、黒豆に一点集中、全面展開） 第2ステップ ① 丹波黒大豆の高付加価値化 ② 黒豆の里「世木」の浸透（黒豆ブランドの設立） ③ 需要の開拓（海外需要） ④ 生産作業軽減のための設備

番号	大項目	小項目	アイデア・意見
60	地域活性化	魅力再確認	・京都丹波はどんな作物も作れる良い土地。黒豆、丹波ぐりなど美味しい特産品がある。袋のデザインに「モエキャラ」（あきたこまち）や「うどん県」（香川県）のように突出した特産物を使ってうまくPRすれば売れ、その波及効果で地域活性化につながる。
61		魅力再確認	・人間らしく暮らせる亀岡を愛しているので、この地域をコマーシャルでPRしたらよい。
62		魅力再確認	・少子化対策、地域振興施策のPR不足。若者がこの地域に住もうとすれば、様々な選択肢があると思えるような施策が必要。
63		魅力再確認	・宿泊施設・観光施設の増加
64		魅力再確認	・地元企業を巻き込んだイベントの実施
65		魅力再確認	・「豆―1」グランプリの実施
66		基盤整備	・鉄道沿線では、積極的に開発を進める。滋賀県の草津、守山あたりと時間距離は変わらない。
67		基盤整備	・医療、教育施設の充実
68		基盤整備	・医療機関が弱い。山林作業でケガをしたときの救急対応に不安（旧和知町）
69		基盤整備	・商店街、大型ショッピングモールの充実
70		基盤整備	・若者が集い、楽しめるショッピングモールやカフェなどがほしい。
71		基盤整備	・アウトレットモールを誘致して地域を活性化。
72		基盤整備	・おしゃれな飲食店があまりなく、京都市内まで出ている。
73		基盤整備	・娯楽・アミューズメント施設の環境も人口流出を防ぐには大切。スタジアム建設が地域活性化の起爆剤となるよう期待。また、商業施設の誘致にも取り組んでいただきたい。
74		基盤整備	・集客施設の誘致に当たっては、既存の商店街への配慮も大切
75		基盤整備	・交通機関の充実
76		基盤整備	・地域開発（交通機関）は進んだといえ、地域外に出るのは不便
77		基盤整備	・ JRの駅が近くにはあるが、1本／時間程度しか列車がなく、普通電車で停車しない列車もあり不便。
78		安　心	・交番の充実
79		安　心	・有害鳥獣の駆除
80		安　心	・ 農業のため移住した人で鳥獣被害が多くやめる人がいる。

番号	大項目	小項目	アイデア・意見
81	地域活性化	全　般	・道路網などのインフラ整備や出産・子育て支援などの暮らしの支援のような中長期的な取り組みと、定住者向け住宅支援施策や後継者育成などの短期的、集中的に取り組むべきものがある。
82		全　般	・転出を抑制し、転入を促進するために、①地理的優位性を発信する　②企業誘致による雇用の確保を行う　③住宅に係る経済的負担の軽減を図る　など ・出生率低下の要因には、未婚率の上昇があり、その背景には仕事と子育ての両立の負担感（経済的問題・子育て環境の問題など）の増大がある。　経済的な不安感を払拭するには安定した就労環境が必要であり、地域における就労場所の確保を図るためにも、企業誘致が大切であり且つ正規雇用の創出が求められる。雇用が確保されれば必然と定住化も促進される。
83		全　般	・南丹市では、昨年度、定住促進アクションプランを策定し、流出人口の減と流入人口の増、出産・子育てに対するバックアップ、産業や雇用、住まいと暮らしの支援を通じて人口減少に歯止めをかける取り組みを始めることとした。部局の枠を超えて12課より選任した委員が定住促進行動計画推進本部を組織して進めている。
84		全　般	・ 京丹波町では毎年、町長、議員等が町内を巡回して公民館単位で住民との話合の場を持っており、きめ細かな対応は田舎の良さである。
85		全　般	・働く世代への支援をはじめ、全線開通となる京都縦貫自動車道などのインフラ整備を活用し、働く場所の確保に向けた取り組みを進める中で、京都丹波地域の持つ地域資源を最大限に生かし、京阪神1500万人をターゲットにした観光した観光などの交流施策を推進することで交流人口増加につなげ、「交流」から「滞在」、そして「定住」につなげることが大切
86		スポーツの京都丹波	・京都丹波地域は、運動公園等が充実して来訪者が多い。特に美山のサイクリングコースは案内もしっかりしており、京都丹波＝スポーツで売り込むべき。
87		障害者スポーツ施設整備	・京都の障害者のためのスポーツ施設は、京都市内に1カ所（高野）しかない。京都丹波地域に「障害者スポーツセンター」を整備し府の北中部の障害がある利用者の利便性を図る。
88		障害者スポーツ施設整備	・「障害者スポーツセンター」のメンテやクリーニングには、障害者福祉事業所の参入が期待され、障害者雇用、工賃アップにつながる。
89	定住化促進	全般	・雇用創出、地域活性化や人口流出阻止、定住化促進などは、他分野に関わる問題であり、保健所が出来ることに限界がある。出来るだけ多くの分野の方に現状を知ってもらい、自分たちの分野で出来ることは何か、それぞれの宿題とし役割として一つは担ってもらう。それぞれが担ってもらった役割を管内の少子化対策として大きなくくりとする。 ・上記は一朝一夕で出来ることではないので、それぞれが担う役割について長期目標、短期目標をかかげ、一定期間ごとにモニタリングをしていく。
90		全般	・ 施策として「就農支援」と比較すると、「移住者支援」が充実していない。就農希望者向け、商業者向けの移住者への総合案内窓口があればと思う。
91		全般	・ インターネット（光回線）があれば情報収集、情報発信もでき、買い物にも困らない。

番号	大項目	小項目	アイデア・意見
92	定住化促進	全般	・ 京都まで1時間、神戸まで2時間圏内、インターネット（光通信）環境、雪が少なく田畑があり、水がおいしいこと、さらに人間関係が排他的でないことを移住の条件としていたが、上記条件に合致し、手作り市の先駆けで「市」が多く開催される京都市に近い京丹波町を選択して田（0.7畝）付きの空き家を購入。
93		きっかけづくり	・芸術に触れることのできる機会・場所が少ないので、行政にイベント等を主催してほしい
94		きっかけづくり	・南丹広域振興局内に少子化の総合案内部署を設置 趣旨：少子化対策にかかる施策は、（雇用・定住・子育て・婚姻・妊娠出産等） ・多岐にわたり、かつ所管機関も多数となる。 ・上記について、行政（国・府・市町）や民間を含めた各機関が行っている少子化関連事業を情報収集し、府民に情報発信する総合案内部署を設置
95		きっかけづくり	・クラインガルテンはコストを安く仕上げる為、間伐材の利用と休耕放棄地に住居建設が出来るよう行政から指導頂き、早急に行動を起こしたい。
96		きっかけづくり	・地域の良さ、感動の学習会（地域の歴史、伝統、文化、人物、特産品）
97		きっかけづくり	・農村留学。ホームステイを通じて、若者に京都丹波の魅力を実感してもらう。
98		きっかけづくり	・須知高校でも地元密着した取組が大切と考えており、魅力発信のためのプレゼンテーションなどで好循環を生むようにしている。
99		きっかけづくり	・京丹波地域への留学制度を作る。地域に住まないとその地域の良さはわからない。
100		きっかけづくり	・京丹波地域への仮移住体験（空家等を活用した居住体験）
101		きっかけづくり	・丹波への交流人口は増加しているが、そこから定住化に繋げる具体的施策がない。
102		きっかけづくり	・定住化対策は不十分であり、縦割りではなく、振興局での総合的なワンストップ窓口の設置
103		きっかけづくり	・郊外になればなるほど転入のハードルは高くなる。役場にコンシェルジュのような担当者がいたり、吉田委員のような地域に頼りになるサポーターがいてくれるとありがたい。
104		きっかけづくり	・積極的な就職フェアや、大学でこの地を離れても、就職を考えるときにこの地域が魅力的であることを思い出してもらえるような仕掛けづくり
105		きっかけづくり	・高校生が地元に残りたいと思っても働き口がないと聞いており、職場フェアや職場見学などを通じて地域の良さを感じてもらうことが大切

番号	大項目	小項目	アイデア・意見
106	定住化促進	きっかけづくり	・ 都会育ちで都会のマイナス面を見てきたことも、田舎暮らしをする動機になっている。
107		きっかけづくり	・農業にもっと力を入れて、当初3年間は所得保障があるが、それの拡充を図っていけられればと思う。
108		京都丹波のよさ情報	・丹波の最大の魅力は大都市に隣接しているにもかかわらず、大自然があるところ。京都から1時間以内の「都会に一番近い田舎」として、もっとアピールすべき。丹後や中丹では、これは主張できない。
109		京都丹波のよさ情報	・丹波への定住促進には、丹波の良さ、田舎で住むことの良さ、アピールできるところを訪問者に伝えることが必要。観光パンフではなく、定住化パンフの作成に取り組んではどうか。
110		京都丹波のよさ情報	・「子育てが最もしやすい地域」をもっとアピールし、子育て世帯や新婚世帯を定住化に繋げる。
111		京都丹波のよさ情報	・ライバル地域（京都市、中丹）との違いを明確にPRすることが重要
112		京都丹波のよさ情報	・まず地域を知ってもらうこと（地域のPR）
113		京都丹波のよさ情報	・雑誌やFacebookなどのSNSを活用した若者による情報発信
114		京都丹波のよさ情報	・京都丹波地域のキャッチコピーを作る
115		京都丹波のよさ情報	・1ヶ月程度のお試し生活
116		京都丹波のよさ情報	・JRが走っており、近い将来京縦が全通するなど、交通アクセスに恵まれた地域であることをよりアピールした企業誘致を進める。また、林業大学校や建築大学校など専門的な学校が集中する地域でもあり、これらの卒業生を京都丹波地域で雇用するルートを構築する。
117		京都丹波のよさ情報	・南丹市が制度化している空き家紹介の拡充などが考えられるが、人口減少問題の解決策としてそのような施策をしている自治体が至る所にある中で京都丹波地域を選んでもらうには、まずこの地域の魅力に触れてもらい、住んでみたいと思ってもらうことが必要である。そのため、まずは第一段階として、継続してこの地域を訪れてもらえるようなイベントを企画し、ファンを増やしていくことに力を入れる方が効率的。
118		京都丹波のよさ情報	・町の魅力や各種施策が充実していることを、さらに広報啓発し、父兄が自信を持って、子供に地元定着を勧めてもらえる情報を発信していただきたい。
119		京都丹波のよさ情報	・メディアを活用した地域振興（婚活番組の誘致等）
120		京都丹波のよさ情報	・地域の観光資源のPR（地域の祭など）
121		京都丹波のよさ情報	・南丹・亀岡地域に運動公園等があり土日に域外からスポーツをするため来る人が多い。美山にはサイクリングコースも整備され、案内板、マップ等のサポートも充実している。南丹地域＝スポーツのイメージを高めるべき。

番号	大項目	小項目	アイデア・意見
122	定住化促進	住まい情報	・市内で働く世帯（小さな子どもを持ち、マイホームを考えている世帯）に対して、通勤圏内で市内より安い価格で家を購入あるいは借りることができることを売りにPR戦略を進める。 →不動産会社と連携し、「市内から電車で〇分で通えます」を全面に出し、居住者を増やしていく。
123		住まい情報	・二世帯住宅建築者への補助金、もしくは建築規制の緩和
124		住まい情報	・市内の学生に住んでもらう施策（例）「田舎でルームシェア」
125		住まい情報	・京都丹波地域にある大学の学生、約5,000人が定住を考えるような施策（就職や居住地の斡旋など）
126		住まい情報	・空き家になっている一軒屋を把握して、住宅を必要としている人とマッチングさせる公的な制度が欲しい。
127		住まい情報	・畑付き（新婚）住宅など、転入者が住みたいと魅力を抱く物件の提供など条件整備が必要
128		住まい情報	・ 京都丹波地域の空き家需要は高いと思うが情報が少ない。 行政が空き家情報を発信すれば、希望者は安心して空き家を探すことができる。綾部市では民間が積極的に空き家情報を発信し紹介しているので、連携した取組も必要ではないか。
129		住まい情報	・農家の次男三男のUターン対策として、市街化調整区域における住居の新築を容易にするような規制緩和が必要
130		住まい情報	・若い人への特優賃
131		住まい情報	・男女のシェアハウス（テラスハウスみたいなもの）を作る
132		住まい情報	・校外においてアパートや貸家があれば、定住を考える際のハードルがかなり下がると思います。
133		住まい情報	・ほどよい田舎や静かで住みやすいことを売り出す
134		交通機関、通勤・通学支援	・[長距離通勤補助・支援]京都丹波地域は山陰線の複線化、京都縦貫道の完成を受けて交通網がかなりよくなった。このことは人口流出の危険でもあるが、一方で、この地域に住んで都市圏（大阪、京都）に通勤することがより効率的になったこともいえる。 従って、長距離通勤負担を軽減し「故郷である京丹波に住みながら都市圏に就職する」ことをサポートする取組みが有効であると考える。具体的には都市圏との高速バスによる通勤手段の確保、高速料金や特急費の補助がよいと考えられる。この制度により仕事がないから地域を出ていくことを抑制できる。
135		交通機関、通勤・通学支援	・壮大な街づくりプロジェクトで交通網の整備 総合リゾート複合施設と街を結ぶワンコインバス、観光ルートバス等の充実
136		交通機関、通勤・通学支援	・通園・通学バスの充実 (管内の学校・保育園等を巡回する無料(または減額)のバス)

番号	大項目	小項目	アイデア・意見
137	定住化促進	交通機関、通勤・通学支援	・田舎での日常生活には、買い物の足の確保が欠かせない。公営バスの充実が必要
138		交通機関、通勤・通学支援	・生活する上で必要な買い物・医療機関・役所などに、歩いて30分以内の距離で行ける街は魅力的ですが、そのような点ではこの地域は自家用車がないと不便な地域 　車が持てない・運転できない子どもを持つ若い世帯が、安価で気軽に利用できる送迎サービス等で住みやすい街づくりが必要
139		交通機関、通勤・通学支援	・電車、バスの増発（小型化）、インフォーマルな送迎サービス、管内の路線バスは運賃が高いので割引券を発行
140		交通機関、通勤・通学支援	・交通の利便性 通勤通学を考えた場合、公共交通機関が確保できなければ厳しいと思います。 子育てから高校までの子どもを持つ家庭にとっては、自家用車だけでない交通の確保が必要
141		交通機関、通勤・通学支援	・バスの運行本数が少なすぎるので、送迎ボランティアがいればいい
142		交通機関、通勤・通学支援	・京都市内への通勤定期割引制度
143		基盤づくり	・近くに職場があり、安定した収入が得られれば、定住する。
144		基盤づくり	・定住したいと思えるハード及びソフトランディングの受け皿作り
145		交流促進	・最近、幼い子どもが殺害されたり、負傷するという痛ましい事件が頻発している中、安心して子どもを野外の大自然の中でのびのびと遊ばせることが難しい状況にある。そこで、子ども達が昔ながらの遊びや自然の中での遊びを体験学習できる環境を整備する。 　これにより安心・安全のまちづくりだけでなく、子育て支援や高齢者の生きがい対策としても期待できる。 ・子どもに昔の遊びや自然体験の指導をするボランティアを募集し、配置する。 （例）独楽、剣玉、たこ揚げ、メンコ、ビー玉、魚釣り、昆虫採集等
146		交流促進	・田舎のしきたり、地域のつきあいについて理解が進んでないことがハードルとなっており、このことをもっと啓発すべき。
147		交流促進	・若者がついていけるよう、田舎の慣習の改革が必要
148		交流促進	・地域ルールの見直し（田舎暮らしの煩わしさからの解放）
149		交流促進	・地域の役員や集会が男性主体のため、行政情報が女性に届かないことが多い

番号	大項目	小項目	アイデア・意見
150	定住化促進	交流促進	・メモリアルイヤーにおける同年代の絆を深める。 ・20歳の成人式後、5年ごとに同年代の絆を深めるイベント等を行う。 ・市町（行政）・年代代表者とで実行委員会を設けて、市町で活躍している同世代の紹介や暮らしやすさや雇用の場などをミニコミ誌で発信 ・5年ごとに同窓会を行い、他市町村への移住者に積極的に参加を呼びかけ、他市町村からの参加者には、特典として商店街の商品券＜5万円分：1年間有効＞を発行
151		交流促進	・若者主体となった様々な同好会を立ち上げ、趣味を通して出会いを創出。市町の広報誌・ホームページで参加者募集・活動紹介 ・ランニング、山登り、ダンス、 ・写真、楽器、鉄道、園芸、囲碁 ・将棋・町（名所・旧跡）めぐり、お茶の会、飲み会、座禅
152		交流促進	・林道を活用しロードバイクによる「ツーリングツアー」で若い男女を呼び込み、出会いの場、定住化につなげる。同様に「南丹一周トレイル」をつくり、登山客を呼び込む。
153		交流促進	・京都丹波地域の名跡などを売り出す
154		交流促進	・「くまもん」のように地域の「ゆるきゃら」の知名度を上げる。
155		交流促進	・中学、高校時代の生活が楽しく、かつ友人ができ、地域に愛着がもてる活動の促進（部活動（体育会及び文化系）、地域の伝統芸能や祭りへの参加）
156		交流促進	・山の整備（ハイキング道の整備）
157		交流促進	・国は外国人の移住計画も考えているが、生活様式の違いなどがあり難しい
158		交流促進	・ 休日に人が集まるような大型ショッピングモールや、豊かな自然と道路を生かしたカーレースイベント等を実施し、集まった人に京都丹波地域の居住地としての魅力を伝えられれば、交流から定住に結びつけられる。
159		人と人のつながり	・旧住民、新住民との人間関係の親交と円滑化
160		人と人のつながり	・思いやりの心、感謝心、愛国心向上の道徳教育
161		教育	・幼稚園から大学までの連携
162		教育	・安心感向上の為、ふる里教育の実施（私のふる里　発見と感動の学習会）
163		教育	・人間性向上と愛郷心向上の為、道徳教育の実施
164		教育	・幼児教育による人間づくりが大切
165		教育	・子どもの農業体験

番号	大項目	小項目	アイデア・意見
166	定住化促進	教育	・子どもの教育が出来る環境がなければ、自然があっても定住出来ない。廃校した学校を復活させる。無理なら、学校までの時間距離を短くする工夫が必要
167		教育	・高校卒業までに地元愛を育めるような教育
168		むらづくり	・ダッシュ村ならぬ「子作り村」をつくり、結婚、妊娠、出産、子育てを地域全体で支える。地域の高齢者がこれまでの経験を生かし、親代わりになって若者の子作りから子育てまでサポートする。ご当地出身のタレント等の子作り子育て奮戦記をテレビ局がリポートするような企画になれば話題性は高い。
169		むらづくり	・若者が住みたいまちづくりとして、モデル住宅ならぬ「モデルタウン」づくりを進める。プランづくりからまちづくりの実践まで若者を中心としたスタッフが行う。まち全体を一般の人が見学できるテーマパークとして、まちづくりの過程から集客（地域資源を生かしたまちづくり、自給自足で出費の少ないまちづくり等）
170		むらづくり	・都会志向を断ち切るためにも、地域活性化のまちづくり企画に、地元学生たちの発案を取り入れる仕組みをつくり地元定着意識を高められたい。
171		むらづくり	定住化の促進 第1ステップ ① 田舎暮らし体験施設の設置 ② 集落の教科書の作成、映像化 ③ 空き家調査と空き家バンク ④ 婚活の実施（継続） 第2ステップ ① クラインガルテンの導入（間伐材利用） ② 未耕作地に住居建設許可 ③ 入居者に固定資産税の免除 ④ 空き家改修費用の増額
172		むらづくり	・地域で家庭を築く若者を増やすとともに出生率を高めていくためには、地域の特性を活かした職住一体となったまちづくりや子育て支援などを総合的に取り組んでいく事が必要
173		むらづくり	・母子家庭の帰郷が増えており、ひとり親世帯が安心して暮らせる地域づくり
174		むらづくり	・各所管における既存の取組について、定住促進や少子化対策の観点から見直しを行い、創意工夫を図っていくとともに、定住促進等について効果があると思われる未実施の事業について検討していくことが必要

番号	大項目	小項目	アイデア・意見
175	結婚	出会い	・既婚者を増やすために出会いの場を創ることと併せて、転入・定住促進につながる対応
176		出会い	・「妊娠」「出産」「子育て」に関する施策は、国・府の制度と合わせ市町村独自施策も展開し一定充実しているが、そこに至るまでの「結婚」における施策拡充が必要と考える。現在では、婚活イベントなどを市町村単位で取り組んでいるが、市町村単位で効果を図るよりも、広域化することによりスケールメリットを追求することができるので、京都府や振興局（保健所）が主体となり事業展開するような方向性を見出してはと考える。
177		出会い	・婚活を応援、婚活パーティなどの実施の斡旋
178		出会い	・ 行政主体の「恋活・婚活」には、安心して参加できる。
179		出会い	・婚活も一度で上手くいくものでないと思うので、例えば、婚活教室や婚活大学など継続的に行う必要がある。
180		出会い	・ 若い世代は「恋活・婚活」とストレートに表現されると抵抗を感じる人もいるので、趣味を同じくする人が集まりやすいようなイベントを開催すれば、自然と男女の出会いの場になる。
181		出会い	・就農者向け婚活の実施
182		出会い	・看護学校生と林業大学校との出会いの場の創出。これがうまくいけば、林業と医療での担い手確保に貢献でき、地元定着につながるはず。
183		出会い	・婚活NPOは熱心に取り組んでおり、財政的な支援や広報での積極的な支援をする。
184		出会い	・結婚促進については出会いの場の創出。一昔前に「街コン」が流行したが、街ではないということを逆手にとり、京都丹波地域の強みである「自然」「農業」「スポーツ」「アウトドア」など、様々な角度で出会いのきっかけを演出することはできないか。
185		出会い	・職場でも、家庭内でも、親戚うちでも、地域でも、適齢期の人に対して「相手はおるんか？」と世話を焼く人が減ったと思う。 草食系といわれるような人が増えたのではなく、昔も今も自分で結婚相手を探すのが不得手な人の割合は変わっていないと思う。 婚活と銘打つより、若手が半強制的に参加する行事を大事にしたり、個別にお節介をやくのがセクハラにならない職場づくりや地域づくりの醸成も。
186		出会い	・結婚したくても相手が見つからない等の理由で結婚していない人は結構います。そのため婚活などの出会いの場の提供は必要と思います。婚活パーティも定期的に開催するのが良いと思います（希望者が全員参加できるようにするため） 女性は婚活パーティに積極的ですが、男性の応募が少ないのは雇用問題（非正規雇用等で収入が少ないため結婚に消極的になっている）が影響しているのではないでしょうか。
187		出会い	・地域でのさかんな恋活、婚活イベント開催

番号	大項目	小項目	アイデア・意見
188	結婚	出会い	・最近では、まち婚など出会いの場を提供する取り組みがされてきている地域もありますが、ぜひ行政がバックアップする婚活支援事業に取り組んでいただきたい。行政が関わって企画される婚活支援事業には、民間企業と比べて、安心感と費用に大きなメリットがあります。しがって、まち婚を含めて行政が関わる婚活支援事業に積極的に取り組んでほしい。
189		相談窓口	・婚活マスターの活動
190		相談窓口	・結婚相談いつでもOK窓口の設置
191		相談窓口	・婚活実施者への補助金
192		促進策	・結婚や子育ては楽しく充実していて、子育ては親育ちにつながるようなよいイメージを醸成する施策の導入
193		促進策	・市から結婚祝い金を贈る
194		促進策	・ウエディング・ファッションショーや式場の模擬披露宴での赤ちゃんモデルを活用したできちゃった婚披露宴バージョンによるPR
195		促進策	・新婚家庭への住居や宅地の無償提供 子どもが生まれると地域に縛りがかかり転居しにくくなるなることから、5年とか10年とか一定期間の無償提供でよいと思われる。後は学校や地域の関係で近隣の住宅地を探さざるを得なくなる。
196	妊娠・出産	医療体制	・産婦人科医院の誘致（京丹波町には産婦人科がなくて不便）
197		医療体制	・小児科、産婦人科が不足している。充実が必要
198		医療体制	・子育てを考えるうえで、医療・教育施設の存在はやはり重要だと思います。
199		医療体制	・夜間小児科医院の誘致
200		医療体制	・3人目以降の出産時の出産費用完全無料化
201		医療体制	・出産支援施策、母子の健康サポート施策、経済的負担の軽減
202		医療体制	・2人目、3人目を産んでも育てられる支援制度の拡充
203		医療体制	・不妊治療を充実拡大し、望んでも子どもの生まれない家庭に対する支援策を充実させ、選択肢としての公平感を確保
204		医療体制	・不妊治療の補助
205		医療体制	・二人目以降を増やすには、妊娠中、出産、育児、教育に係る費用を公費でもっと負担してもらえれば、もっとたくさん産む人が増えると思う。

番号	大項目	小項目	アイデア・意見
206	妊娠・出産	出産不安の解消	・結婚適齢期という言葉は、今ではセクハラにつながるのかもしれないが、子供を産むという適齢期は、生物として延ばすことが出来ないということ、高齢出産の弊害についてなど、若いうちからしっかりと知識をつけておくべき。不妊治療が発展した弊害もあるのではないか。高齢出産では、産める子供の数が必然的に減ってしまう。
207		出産不安の解消	・合計特殊出生率に関しては上昇しているが、私の周りを見ても農村部は祖父母の協力が得られるためか、一人っ子は少ない。また農業に従事している証明を出せば保育所に入所させられるので、二人目、三人目を生む人が多く、子供が2人、3人といるのが当たり前の雰囲気
208		出産不安の解消	・大変な作業ですが、出生状況を市町別ではなく、地域別でみればもっと見えてくることが多いのではないでしょうか。地域ごとの出生状況を地図に落とし込むことで地域特性に応じた状況が見えてくる。現状をもっと細かく知らなければバクッとした施策しか出せない。地域に特化した課題を抽出し、それを積み上げて南丹地域の課題とする。
209		出産不安の解消	・出産適齢期を逃して産みたい人が産めないことを予防するために 年齢が上がるにつれて妊娠の確率や出産のリスクが上がることを知らない人は意外と多いと思うので、そこの啓発は必要（産め産めとならないようなメッセージとして）
210		出産不安の解消	・妊娠中から集える場所の確保
211		出産不安の解消	・産前・産後ケア講座など、子育ての不安を解消できるような勉強の機会があればよい
212	子育て	全　般	・出生率を高めるうえでは、安心を支える「地域医療」と郷土愛並びに子育てのあり方に対する就学前教育の充実が欠かせない施策であり、京都丹波らしさを生かした施策展開を図ることで地域の魅力向上につなげる必要があると考える。
213		全　般	・南丹市では、総合振興計画において「安心して子育てができるまちをつくる」というテーマを掲げているように、次代を担う子どもを安心して産み育てられる環境づくりや、地域全体で子育てを支援するまちづくりに努めている。
214		全　般	・「南丹市子育て支援条例」に規定しております「子宝祝金事業」「入学祝金事業」「子育て手当支給事業」や「すこやか子育て医療費助成事業」などの本市独自の事業推進により、子どもの安全な生活を保障するとともに、出産や子育て世代の転入などの動機づけにもなっていると考えており、少子化対策においても必要な事業であると認識している。今後も地域の事情に応じた支援の総合的かつ効率的な提供に努めたい。
215		全　般	・子育てが損をしない社会を実現し、結婚や出産をしてもよいという若年者が増えるよう日本の社会制度を抜本的に見直し、フランスやドイツ型の子育て社会を構築

番号	大項目	小項目	アイデア・意見
216	子育て	全　般	・非正規社員の正社員化や処遇改善の取り組みを促進できる対策をお願いしたい。非正規社員が3分の1といわれていますが、地域によっては4割に近づいている中で、パートナー探しも大変です。夫婦共働きは必然となりますが、万一病気でもしたら、生活困窮に陥ります。出産や育児期間の家計収入と育児費用を考えると出産なんて大冒険です。非正規社員の処遇改善は、非婚化、晩婚化の少子化対策にも大きくかかわってきています。
217		全　般	・新婚住宅、出産医療施設、子育て不安解消体制、病時、病後児保育、男女共同参画推進、中学生までの医療費補助、中学校完全給食などの施策を充実させ、女性が産み・住み続けたいと思える環境を整えていただきたい。
218		全　般	・赤ちゃん専用店舗
219		全　般	・子育てに関する意見が気軽に言えるように、スーパーなど人が集まる場所に意見箱を置く
220		全　般	・行政組織が縦割りで、うまく連携出来ていないように感じるので、子ども・子育てに関する窓口を1つにしてほしい
221		子育て・地域支援	・子育てに関して親が不安になった時に気軽に頼れる場所があること、防犯も含め子供が安心して安全に暮らせる環境が、定住・出生率の向上につながっていく方法のうちの一つになるのではないかと思います。
222		子育て・地域支援	・一般的に、子どもと接する機会が少ないと考えられるため、学生の頃に小さな子どもとふれあう機会を持つことが大切である。子どもとの接し方や楽しさなども学習できるのではないか。
223		子育て・地域支援	・中学生や高校生のうちに、赤ちゃんや小さい子供とふれあう機会を設け、母性・父性本能を刺激する。子育て支援センターや乳幼児の教室等を活用する。（保健分野で出来ること）
224		子育て・地域支援	・中学生や赤ちゃんとのふれあい事業や小学4年生や中学生、高校生が保育所で子育て体験ができる取組が大切である。
225		子育て・地域支援	・妊娠時から子育てまでについて、何でも相談できる者が必要。
226		子育てサークルや地域での支援	・転入者は孤立しがち。廃校を利用するなど、幼児から高齢者まで集える世代を超えたサロンのような場が地域にあればいいなと思います。
227		子育てサークルや地域での支援	・ 予防接種など、子育て当事者が集まるところに「地域の世話人」を送り込み、地域の人が子育て家庭に直接声をかけられるような関係づくりを実施してはどうか。
228		子育てサークルや地域での支援	・地域の行事を中心に「地域で子育て」感を出す。

番号	大項目	小項目	アイデア・意見
229	子育て	子育てサークルや地域での支援	・当地域では、かめおか子育てネットワークやグローアップなどの団体が活躍し、子育て世代を繋ぐネットワークが比較的進んでいると感じるし、子どもが学び、楽しめる催しも各地で開催されている。これから行政が主体的に力を入れて少子化対策に取り組むことは大切だが、すでに進んでいるNPOや地域団体等の取り組みに重複していては、それこそ予算の無駄遣いになるので、きちんと事業の積み分けが必要と考える。例えば、新たな子育てイベントの開催や、新たな子育てネットワークの構築などで、そういうことに取り組むことで、既に必死で活動されている地域の方の反発を買うことになる。
230		子育てサークルや地域での支援	・妊娠・出産や子育てには悩み事や不安がつきものであり、経験者からアドバイスをもらったり、新米ママ同士で語り合ったりする場を拡充し、より周知させ、「この地域では安心して子育てできる」という認識を持ってもらう。そのような活動を得意とするNPOも多く、行政とNPOの連携を強化していくことも必要
231		子育てサークルや地域での支援	・特に一人目の出産には子育てに悩まないような相談、訪問体制の充実。そして、3人目以降には経済的な支援が大切
232		子育てサークルや地域での支援	・子育て世帯に対するイベント優先制度の創設　花火大会や亀岡祭り等地域イベントでの有料席の無料招待やコスモス園無料招待あるいはイベントにおける子育てVIPルームでの招待など
233		子育てサークルや地域での支援	・他の世代に気兼ねなくゆっくり遊んでもらえるように、るり渓温泉やスプリングス日吉を貸し切り保育士付きで子育て無料開放
234		子育てサークルや地域での支援	・福祉施策の充実による都市住民の確保は所詮対症療法であり、結局のところ京都府全体ではゼロサムゲームにしかすぎないことから、出生率全体を底上げする施策を検討するためこれから結婚出産を検討している若者に魅力ある選択肢として啓発し同時に地域における子育て環境をよくするために子育てを終えた世代やその他の世帯に協力を求める施策を進める。
235		子育てサークルや地域での支援	・子育て家庭に対して公共の場で他の方に対して不快感を与えないようなあやし方講座等の講習会実施により当事者のマナー向上を図り、地域全体の意識を高める。
236		子育てサークルや地域での支援	・地域全体で子育てできる環境を醸成するため、子育て家庭が積極的に地域活動等に参加し地域で受け入れてもらうような働きかけ。顔の見える環境をつくり、近所のおっちゃん、おばちゃん化施策の推進
237		子育てサークルや地域での支援	・子育てを地域で支援できる仕組みづくり
238		子育てサークルや地域での支援	・子どもを安心して育てることができる、安全で住みやすいまちづくり
239		子育てサークルや地域での支援	・週末に家族ですごせる身近な遊び場で自然を生かしていける公園の整備
240		子育てサークルや地域での支援	・金銭面での支援や保育所の充実、出産後の社会復帰の促進はもちろんのこと、人と人とを結びつけるということを志向した施策がより必要になってくる。
241		子育てサークルや地域での支援	・安心して子どもを遊ばせることのできる環境

番号	大項目	小項目	アイデア・意見
242	子育て	子育てサークルや地域での支援	・子どもを遊ばせながら親同士が気軽に懇親を持てる施設開放（子育てへの不安、ストレス解消）
243		子育てサークルや地域での支援	・父親サークルを増やす
244		子育てサークルや地域での支援	・ママ友会があると母も子もアドバイスがもらえ助かる。 （男子学生の実母・自身の体験から）
245		子育てサークルや地域での支援	・子育て当事者は収入がないか、もしくは低いので、参加料を安くするために公民館など有料施設の無償化ができればよい
246		子育てサークルや地域での支援	・子育て支援サークル・団体で活動してもらえる学生ボランティアの斡旋機関があればよい
247		子育て体験・世代間交流	・子どもが欲しいと思える経験。子育てしやすい環境
248		子育て体験・世代間交流	・結婚や子育ては楽しく充実してて、子育ては親育ちにつながるような良いイメージを醸成する施策の導入
249		子育て体験・世代間交流	・小学生に対する赤ちゃんをだっこしてもらうような体験事業の実施
250		子育て体験・世代間交流	・地域の公園や廃校等を利用し、寺子屋を開設。学童保育や児童館のように地域の子どもを集め、学校では学ばないことを地域の高齢者等から教えてもらう。子どもが寺子屋に行っている間、親は子育てから解放される。
251		子育て体験・世代間交流	・小さい子どもたちと遊ぶイベント開催
252		子育て体験・世代間交流	・前回会議で田中委員がおっしゃっていた「世代間交流等、若い世代が子どもがいる社会というのを実感できる社会づくりが重要」に同感。 ・大学生が小学生を引率して地域内遠足など。引率してもらった小学生が大学生になったら引率者になるという両方の経験ができ、世代間でのつながりもできていいと思います。
253		子育て体験・世代間交流	・児童・学生が、赤ちゃんや子育てが身近に感じられるような体験や教育。 ・成人期の健康診断などを通して、健康な体づくりや妊娠出産にかかわる情報の提供
254		女性の就労	・企業においては、少子化で自分たちの会社に将来どのような弊害があるかを知ってもらい、若い女性のキャリアアップを保証してもらうよう促進する。自分たちの問題となれば動くところも増えるのではないか。
255		女性の就労	・学童クラブの時間の延長。中学校も対象とする
256		女性の就労	・子育ての母親が働き続けられる雇用体制や職場の方々の理解を得ることが重要と思います。これら働き続けられる仕組みを行われている企業へのインセンディブの導入

番号	大項目	小項目	アイデア・意見
257	子育て	女性の就労	・パート就労ではなく、キャリアを蓄積して社会に貢献していきたいと考えている女性は多くいます。出産・育児は人生の中でも貴重な経験であり、その経験は仕事にも活かされると思っています。 　この地域で、出産・育児期を上手く乗り切れるように地域社会でしっかりと支援できること、自然豊かな地域でのびのびと子育てし、学習塾や習い事・進学にも都会と引けを取らない地域になれば、京都市内からも転入は望めるかもしれません。
258		女性の就労	・女性が働ける様に保育所の充実
259		女性の就労	・働くお母さんがあたりまえになっていますが、小学校の学童保育は3年生で終了してしまいます。困っている人の話もよく聞きます。もう少し期間は延長できないものですか？
260		女性の就労	・子育てをしながら仕事を続けられるように社会支援
261		女性の就労	・子育てをしながら働いている女性に「1時間プレゼント」施策を実施。 　例：1週間に1回、定時より早く帰宅できる日をつくり、職場ぐるみで同曜日に一斉実施する。
262		女性の就労	・子育てをしながら仕事を続けられるように社会支援
263		女性の就労	・仕事と育児の両立を図るための多様な働き方、制度の充実
264		女性の就労	・子育て期の女性の再就職の支援などとともに、フルタイムでない柔軟的な職場環境も必要
265		保育	・保育やファミリー・サポート事業のより一層の充実。とくに実家の親に頼れない場合など、非常に貴重なサービスだと思います。
266		保育	・職場内にこどもを預かってくれる場所がほしい。駅近くに保育所を。
267		保育	・家の近くに仕事と保育所が揃っている
268		保育	・学童保育等の充実（小学校高学年までの延長など）
269		保育	・妊娠、出産、子育てについては、現行施策でも十分効果があるが、様々な生活様式に対応出来るよう、夜間保育等の検討が必要
270		保育	・夜間保育や学童保育
271		保育	・休日保育所の設置
272		保育	・里山保育
273		医療・保健	・いろんなアレルギーの子供達が増えてきているので、現在の施策（給食の除去対応や市・学校の配慮等）に加え、地域での理解やサポートも充実していれば、出産する親も心強くなると思います。
274		医療・保健	・医療と保育の連携が密でこどもが急に病気になってもそのまま安心して預けられる病児保育の充実

番号	大項目	小項目	アイデア・意見
275	子育て	教　育	・小学生のうちから　結婚、妊娠・出産、子育てに関する教育を充実させる。 こどものうちから正しい保健・医療の知識を身につけてもらいたい。
276		教　育	・豪雪地域の小学校における無料の送迎バスの手配
277		教　育	・小学校や特別支援学校への朝夕の送迎の付き添いなど有償ボランティアの育成
278		教　育	・保育所、幼稚園から高校までの教育制度の充実
279		教　育	・小・中学校における地域学習や社会見学の充実
280		教　育	・小学生や保育園児が10kmも20kmもかかって通学するのは非現実的なので、無料バス券や交通費補助などの通学支援策の充実
281		教　育	・社会教育の拡充によるヒューマンコミュニティ（人間関係）が大切だと思い、取り組みやすい落語によるセミナーなどを考えている。
282		経済支援	・一時的な給付では、少子化対策につながらず、子供を食い物にする親も出てくると思うが、南丹市の出生数が横ばいなのは、子育て施策が充実しているから？
283		経済支援	・子育て手当2万円が支給されたが単発ではなく継続してほしい。
284		経済支援	・子ども医療費助成について、府制度を充実させ、市町村の単費負担を軽減させ、他の施策の充実に繋げる。
285		経済支援	・扶養額（特に未成年に対する扶養額）の増加
286		経済支援	・年少扶養控除の復活あるいは児童手当の増額。特に2人目や3人目と子の数が増えるごとに手当額が増えるような仕組みづくり
287		経済支援	・選択肢として子どもを生まないことを選んだ方に対する将来の年金等拠出制度への公平感を担保するため、出産未経験者に対する増税。あわせて、不妊治療を充実拡大し、臨んでも子どもの生まれない家庭に対する支援策を充実させ、選択肢としての公平感を確保
288		経済支援	・この地域は、比較的京都市内や京阪神方面にも通勤可能というメリットがありますが、通勤には時間を要します。そのため子どもを持つと退職せざるを得ないことになり、この地域に住み続けて子育てするには親等の協力者が必要になります。 保育所の送迎や家事を助けてくれるベビーシッターを雇いあげるには、民間会社では1時間1万円以上の支払いが必要らしく、とうてい若い世帯の収入では追いつかない現状があります。安価で安心して子どもを任せられる公的なベビーシッター制度が必要です。 そのためには子育て経験がある保育士資格等を持つ人材育成と、公的な補助により安価で提供できるサービスが必須ではないでしょうか。
289		経済支援	・若者が子どもを産み育てられる経済力は必須で、安定的な雇用体制と生活基盤は必要です。 これからの将来を担う若者への投資をまずは考えるべきかと思います。

番号	大項目	小項目	アイデア・意見
290	子育て	経済支援	･2子以降に児童に対して独自の給付金制度を創設 （数万円単位でもらった気になる金額）
291		経済支援	・子育て医療の中学校までの拡大
292		経済支援	・給食費や学費の免除
293		経済支援	・年少扶養控除の復活あるいは児童手当の増額　特に2人や3人目と子の数が増えるごとに手当額が増えるような仕組みづくり
294		経済支援	・医療機関の充実、子育て期の医療費助成
295		経済支援	・40歳以下の子どもがいる世帯に南丹市産（場合によっては京都府内、他府県産）の米や季節の特産品などを支給する。無償で支給するのではなく、1,000円程度負担してもらう。 南丹市産と指定するのは、市内の農家や農協を巻き込むことで、地域の活性化につなげるため。支給品の買い取りを農協に委託し、農家の方々には農協へ農作物を持ち寄ってもらう。そこで買い取ったのもを市民に支給することで、地元の農作物の魅力を知ってもらう良い機会になるほか、農家の方々の農作物を作る思いも強くなると思う。地産地消をすることで、作物の魅力を伝えていくことができ、支給される側も低価格で食料を得ることができるのではないだろうか。
296		経済支援	・自分がこれから子育て世代へと移り変わっていく中で、必要と考えるものは、やはり金銭的な援助である。子育てをしていく中での不安要素である金銭面は、いつの時代でも問題になると思う。この要素を解消できないことから子どもを生み、育てていくことをためらい、決心するに至らないのではないだろうか。そうなると、少額であれど金銭的な支給は子育て世代にとって有意義である。若者の定住へ向けて結婚の支援も必要かと思うが、まずは子育ての際に受けられる援助や制度を明確化し、アピールすることで若者は興味を示すと思う。
297		経済支援	・子どもに対する医療費補助や無償化
298		経済支援	・若い子に、子供を持つことのデメリット（主にお金）ばかりが目に入っているのではないかと思います。でも、それ以前に意外とおつきあいをしている子が少ないので、やはりそこからでは・・・
299		経済支援	･妊娠、出産、子育てにはお金も体力も必要になります。 その負担が少しでも軽くなるように医療費や保育料の軽減や免除などがもっと充実すればよい。
300		経済支援	・子育て費用の補助
301		経済支援	・ 補助金ではなく、子育てに関する費用を全て無料化してほしい
302		経済支援	・保育料を安くする。（所得にかかわらず一律負担に）
303		経済支援	・保育所の確保、2人目からタダなど
304		経済支援	・経済支援。医療費補助。保育料や教育費の負担軽減

番号	大項目	小項目	アイデア・意見
305	子育て	経済支援	・ ３人子どもがいるが、同じ教材を3回購入するのは負担が大きい。
306		経済支援	・妊娠出産、子育ての経済的援助や住宅補助
307		経済支援	・収入の安定
308		経済支援	・多子家族向け住宅改修（増改築）補助金
309	子育て	経済支援	・子育て支援パスポートの利用先の爆発的な拡大
310		経済支援	・チャイルドシートの貸出し
311		経済支援	・第3子が生まれたら軽自動車贈呈
312		情報発信	・京都丹波地域に実際に住んでいる家を見学するツアー等を不動産会社等とコラボ企画し、より身近なまちとして感じてもらう。
313		情報発信	・子育て世帯が魅力を感じる施策の提案し、都市住民に積極的に広報することにより都市住民を呼び込むと同時に都市への流出を阻止することにより地域振興を図る。
314		情報発信	・子育てなどに関する情報を市町村単位で提供しているが、内ではなく外に情報発信するのであれば、京都丹波地域として情報集約し、広域的な視点で魅力を発掘する中で、共通性と独自性に分けた形で情報発信
315		情報発信	・子育て時期の支援を発信していけばどうか。豊かな自然をアピールして都会に住む人に伝えていく。
316		情報発信	・子育て支援策の積極的なPR
317		情報発信	・子育てサークルの活動等で足りない施策を実施するためには、事業をデータベースにより一元化する。
318	結婚・子育て	全般	・市町によって施策は異なるため、京都府でメニュー方式の総合補助金制度を創設
319		全般	・最近の若者には「仕事がない→結婚できない→子どもがいない」というケースが多い